

0001

論文設計 > 設問要求・論点の分析 | 難易度：標準

設問が「対象業務の概要、設計上の課題、採用した方式と理由を具体的に述べよ」と求めている。最初に行うべきことはどれか。

- ア．業務概要・課題・方式・採用理由を必須要素として分け、自分の事例を対応付ける。
- イ．得意な技術の説明から書き始める。
- ウ．業務概要だけ詳しく書く。
- エ．製品名だけを中心にする。

答え・解説

正答：ア

ア：設問語ごとに要素を分けると書き漏れを防げる。

イ：設問起点でなく論点ずれしやすい。

ウ：課題と方式理由が欠ける。

エ：課題との対応がなく判断を評価できない。

総合解説：B-2は設問に沿った具体的な検討と理由が重要であり、要求要素の分解が出発点になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0002

論文設計 > 設問要求・論点の分析 | 難易度：標準

設問が「方式を採用した理由と、採用後に確認した効果」を求める。適切な構成はどれか。

- ア．採用後の効果だけを書く。
- イ．採用前の条件・比較から理由を示し、その後に測定結果や業務効果を別に述べる。
- ウ．製品の一般的特徴だけを書く。
- エ．理由と効果を区別せず『良かった』と書く。

答え・解説

正答：イ

ア：なぜ選んだか説明できない。

イ：判断根拠と事後結果は役割が異なるため分ける。

ウ：自分の判断にならない。

エ：具体性と因果がない。

総合解説：採点講評では実施事項だけでなく、実施理由や検討経緯も求められている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0003

論文設計 > 設問要求・論点の分析 | 難易度：標準

設問は「システムアーキテクトとして、どの観点で方式を比較したか」を問う。適切な方針はどれか。
ア．進捗管理だけを詳述する。
イ．利用者の感想だけを書く。
ウ．自分が設定した比較観点・比較結果・採用判断をシステムアーキテクトの立場で示す。
エ．一般的な比較表だけを書く。

答え・解説

正答：ウ

ア：別役割の作業である。
イ：自分の判断がない。
ウ：問われた役割としての検討と判断が明確になる。
エ：具体的な案件判断がない。
総合解説：設問の主語・対象・時制を保ち、別の役割へすり替えない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0004

論文設計 > 設問要求・論点の分析 | 難易度：基礎

テーマが「現行・新システムの差異を踏まえたデータ移行」である。中心論点として最も適切なのはどれか。
ア．画面配色の変更を中心にする。
イ．クラウド事業者の会社概要を中心にする。
ウ．研修日程を中心にする。
エ．旧新で異なるデータ項目・コード・粒度を特定し、移行方式への影響を論じる。

答え・解説

正答：エ

ア：移行差異との関係が弱い。
イ：設計判断ではない。
ウ：テーマ中心ではない。
エ：テーマの『差異』と『移行』へ直接つながる。
総合解説：案件に論点が多くても、設問の因果線に関係するものへ焦点を置く。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0005

論文設計 > 設問要求・論点の分析 | 難易度：応用

- 「業務上の制約を踏まえて」とある。最も具体的な記述はどれか。
- ア．月末22時まで受注し翌6時から出荷するため、切替え停止時間は最大8時間であった。
 - イ．業務上いろいろな制約があった。
 - ウ．利用者が困らないようにした。
 - エ．高品質が必要だった。

答え・解説

正答：ア

- ア：時刻・業務イベント・許容時間が検証可能である。
イ：内容が特定できない。
ウ：設計への影響が不明である。
エ：品質水準が不明である。
- 総合解説：抽象語は業務条件・数値・対象・時点へ置き換えると判断根拠になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0006

論文設計 > 設問要求・論点の分析 | 難易度：標準

- 設問アが課題、イが設計上の工夫、ウが評価を問う。適切な構成はどれか。
- ア．各設問で別案件を書く。
 - イ．同じ課題を軸に、課題→工夫→評価が因果でつながるようにする。
 - ウ．課題を書かず工夫だけ書く。
 - エ．評価では無関係なKPIを書く。

答え・解説

正答：イ

- ア：論文全体の一貫性を失う。
イ：一連の検討として整合する。
ウ：工夫の必要性が分からない。
エ：施策の効果を評価できない。
- 総合解説：設問群は独立させず、課題・判断・結果を一つの論理線にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0007

論文設計 > 設問要求・論点の分析 | 難易度：標準

最後の設問で「方式が有効だった根拠」を求めている。前半に入れるべき情報はどれか。
ア．担当者の好みの製品名。
イ．本文にない将来構想。
ウ．採用前に設定した性能・業務・移行等の評価基準と目標値。
エ．懇親会の回数。

答え・解説

正答：ウ

ア：客観的基準にならない。
イ：採用判断の評価と無関係である。
ウ：事前基準と事後結果を比較できる。
エ：設計の有効性と無関係である。
総合解説：評価に使う基準を要件・設計判断で先に示すと論文が論理的につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0008

論文設計 > 設問要求・論点の分析 | 難易度：標準

問題文が「既存資産を再利用しつつ段階的に刷新したシステム」を対象とする。最も適切な題材はどれか。
ア．全システムを一括廃止した案件。
イ．既存システムがない紙業務の電子化。
ウ．自分が関与していない他社事例。
エ．既存DBを残し、一部新機能をAPI化して段階導入した案件。

答え・解説

正答：エ

ア：段階的再利用ではない。
イ：既存資産再利用がない。
ウ：自分の経験に基づかない。
エ：二つの限定条件を満たす。
総合解説：テーマの修飾語や限定条件は題材適合性を左右する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0009

論文設計 > 設問要求・論点の分析 | 難易度：基礎

論文を書き終えた後の確認として最も有効なのはどれか。
ア．設問ごとに、対象・理由・具体例・評価が答案のどこにあるか照合する。
イ．文字数だけ確認する。
ウ．専門用語の数だけ数える。
エ．長ければ修正しない。

答え・解説

正答：ア

ア：書き漏れと論点ずれを直接検出できる。
イ：内容適合を保証しない。
ウ：用語数は本質ではない。
エ：長さとは品質は別である。
総合解説：完成後は設問要求と答案を逆マッピングして確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0010

論文設計 > 題材・プロジェクト設定 | 難易度：応用

テーマが「複数システムのデータを活用した指標提供」である。最も適切な題材はどれか。
ア．単一PCのメモリ増設。
イ．販売・在庫・会員システムからデータを集約し、欠品率と購買指標を提供した案件。
ウ．社内掲示板のロゴ変更。
エ．情報システムと無関係な事務所移転。

答え・解説

正答：イ

ア：テーマ要件を含まない。
イ：複数システムのデータ統合と指標提供を含む。
ウ：設計論点が乏しい。
エ：テーマ対象外である。
総合解説：題材はテーマの対象と主要動作を実際に含む案件を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0011

論文設計 > 題材・プロジェクト設定 | 難易度：標準

20名が参加した案件で、論文冒頭の自分の役割として適切な記述はどれか。

ア．チーム全員の成果を自分一人の成果とする。

イ．自分の担当を書かない。

ウ．私はアーキテクト担当として外部連携方式と非機能要件の設計を主導した。

エ．製品名だけを書く。

答え・解説

正答：ウ

ア：事実性を損なう。

イ：自分の検討を評価できない。

ウ：自分の判断と責任範囲が明確になる。

エ：役割説明にならない。

総合解説：B-2は自分の経験に基づく具体的論述なので、役割を明示する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0012

論文設計 > 題材・プロジェクト設定 | 難易度：標準

プロジェクト概要で規模を示す目的として最も適切なのはどれか。

ア．会社沿革を詳しく書く。

イ．無関係な全社売上だけを書く。

ウ．規模情報を全て隠す。

エ．利用者数・拠点数・データ量・期間など、後の方式判断に関係する規模を示す。

答え・解説

正答：エ

ア：設計判断と関係が薄い。

イ：対象負荷を示さない。

ウ：具体性が不足する。

エ：性能・移行・運用方式の前提として使える。

総合解説：概要情報は後の設計判断を理解するための前提として選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0013

論文設計 > 題材・プロジェクト設定 | 難易度：標準

大規模刷新案件でテーマが「データ移行」の場合、適切な論述範囲はどれか。

- ア．全体を簡潔に示した上で、自分が担当したデータ移行部分を中心にする。
- イ．全テーマを同じ分量で書く。
- ウ．移行以外で文字数を使い切る。
- エ．架空の移行案件を作る。

答え・解説

正答：ア

ア：実案件を保ちつつ設問へ焦点を合わせられる。

イ：中心論点がぼやける。

ウ：設問要求を満たさない。

エ：経験に基づかない。

総合解説：大案件では設問に必要な部分を切り出し、全体との関係を示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0014

論文設計 > 題材・プロジェクト設定 | 難易度：基礎

テーマに完全一致する経験がない場合の対応として適切なのはどれか。

- ア．経験していない障害を創作する。
- イ．実際に経験した範囲でテーマに対応する論点を選び、事実でない成果や役割を作らない。
- ウ．他人の案件を自分の経験として書く。
- エ．実案件の制約を全て消す。

答え・解説

正答：イ

ア：事実性を失う。

イ：自分の経験に基づく具体性と一貫性を保てる。

ウ：自分の検討を示せない。

エ：現実の判断過程が消える。

総合解説：採点講評は自らの経験に基づく具体的論述を求めている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0015

論文設計 > 題材・プロジェクト設定 | 難易度：応用

データ基盤刷新の案件概要で最も重要な説明はどれか。

ア．CPUの型番だけ。

イ．開発会社の所在地。

ウ．何の業務目標を達成し、誰がどの判断に使うための刷新か。

エ．担当者の技術趣味。

答え・解説

正答：ウ

ア：業務目的を示さない。

イ：方式判断と無関係である。

ウ：業務目標が後の技術判断の評価軸になる。

エ：要件と無関係である。

総合解説：2025年度採点講評でも、業務目標と指標の関係が重視されている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0016

論文設計 > 題材・プロジェクト設定 | 難易度：標準

論文題材として有利になりやすい案件はどれか。

ア．最初から全て順調で判断事項がない案件。

イ．製品名だけ多い案件。

ウ．規模だけ大きく自分が関与していない案件。

エ．制約や代替案比較があり、なぜその設計にしたかを説明できる案件。

答え・解説

正答：エ

ア：検討経緯を書きにくい。

イ：専門用語量は本質ではない。

ウ：自分の経験を示せない。

エ：課題・比較・理由・評価を具体化しやすい。

総合解説：結果よりも『なぜその設計にしたか』を説明できる材料を重視する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0017

論文設計 > 題材・プロジェクト設定 | 難易度：標準

- 同じ刷新案件を複数テーマで使う場合の原則として適切なのはどれか。
- ア．各テーマに実際に存在した異なる論点を切り出し、中心課題と判断を設問に合わせる。
 - イ．題名だけ変えて同じ文章を使う。
 - ウ．テーマに合わなくても同じ結論にする。
 - エ．一度使った案件は二度と使えない。

答え・解説

正答：ア

- ア：一つの案件に複数の实在論点があれば再構成できる。
- イ：設問適合を失う。
- ウ：因果が不自然になる。
- エ：再利用自体は禁止されていない。
- 総合解説：題材は再利用できても、設問要求に応じて論点・根拠・判断を再設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0018

論文設計 > 章立て・論理構成 | 難易度：標準

- 最も論理的な章立てはどれか。
- ア．評価→製品名→業務背景。
 - イ．業務背景・要件→設計課題→代替案比較→採用理由→実施結果・評価。
 - ウ．技術用語一覧→会社沿革→感想。
 - エ．採用方式→課題を後付け→要件を省略。

答え・解説

正答：イ

- ア：検討過程が分断される。
- イ：設計判断の因果を追える。
- ウ：設問の設計判断がない。
- エ：なぜ方式が必要か分からない。
- 総合解説：前提→課題→判断→結果の流れを作ると一貫性を保ちやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0019

論文設計 > 章立て・論理構成 | 難易度：基礎

第1章がプロジェクト概要の場合、入れる情報として適切なのはどれか。

- ア．第3章の効果測定だけを詳述する。
- イ．採用方式の内部アルゴリズムを全て書く。
- ウ．対象業務、利用者、主要要件、自分の役割、後の課題に関する概要。
- エ．会社史を長く書く。

答え・解説

正答：ウ

- ア：評価章と重複する。
 - イ：概要章として詳細過ぎる。
 - ウ：後段の設計判断を理解する前提になる。
 - エ：設計判断の前提にならない。
- 総合解説：章ごとの機能を決め、重複を避ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0020

論文設計 > 章立て・論理構成 | 難易度：応用

方式採用理由を書く段落として読みやすいものはどれか。

- ア．比較条件だけ長く書き結論を最後まで示さない。
- イ．技術史から始める。
- ウ．方式名だけで理由を省く。
- エ．採用方式を示し、判断条件と比較結果を述べ、要件適合をまとめる。

答え・解説

正答：エ

- ア：論点が分かりにくい。
 - イ：設問と関係が薄い。
 - ウ：妥当性を評価できない。
 - エ：主張と根拠の関係を追いやすい。
- 総合解説：一段落一論点とし、主張→根拠→具体例の形を意識する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0021

論文設計 > 章立て・論理構成 | 難易度：標準

第1章で停止可能2時間、第2章で停止可能6時間と書いている。適切な修正はどれか。
ア．実際の制約を再確認し、全章の停止時間と方式理由を同じ前提へそろえる。
イ．両方残す。
ウ．第1章だけ削る。
エ．根拠なく12時間に変える。

答え・解説

正答：ア

ア：設計理由が依存する前提を一貫させられる。
イ：信頼性を損なう。
ウ：方式理由が弱くなる。
エ：事実に基づかない。
総合解説：利用者数・時間・データ量・役割など再登場する事実は章横断で整合させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0022

論文設計 > 章立て・論理構成 | 難易度：標準

設計課題が8個あるが『最も重視した課題』を問われる。適切な構成はどれか。
ア．8個全て一文ずつ列挙する。
イ．設問に直結し自分の判断を具体化できる主要課題を絞り、深く論述する。
ウ．無関係な課題を選ぶ。
エ．課題を書かず結論だけ書く。

答え・解説

正答：イ

ア：表面的な羅列になる。
イ：限られた字数で検討過程まで示せる。
ウ：テーマ逸脱になる。
エ：判断の必要性が分からない。
総合解説：広さより設問に沿った具体的な検討過程を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0023

論文設計 > 章立て・論理構成 | 難易度：標準

評価章の記述として最も説得力が高いものはどれか。

- ア．利用者が何となく速いと言った。
- イ．最新技術なので速いはずだ。
- ウ．目標2秒に対し、本番計測で95パーセンタイル1.4秒となり目標を満たした。
- エ．測定せず成功とした。

答え・解説

正答：ウ

ア：主観的である。
イ：技術の新しさは達成を保証しない。
ウ：事前目標と事後測定を対応させている。
エ：評価根拠がない。
総合解説：評価は前段の業務・非機能目標に対する結果として書く。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0024

論文設計 > 章立て・論理構成 | 難易度：基礎

方式Aは高可用・高コスト、方式Bは低コスト・復旧遅延である。適切な比較はどれか。

- ア．方式Aの長所とBの短所だけを書く。
- イ．価格だけで決める。
- ウ．方式ごとに比較軸を変える。
- エ．可用性目標と予算制約を示し、同じ評価軸で比較して採用理由を述べる。

答え・解説

正答：エ

ア：恣意的である。
イ：重要要件を無視する。
ウ：比較結果の意味がなくなる。
エ：公平な比較で要件適合を説明できる。
総合解説：トレードオフは何を優先し何を許容したかを要件・制約と結び付ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0025

論文設計 > 章立て・論理構成 | 難易度：応用

- 『停止時間2時間』を3章で長く繰り返している。適切な修正はどれか。
- ア．概要章で制約を定義し、後続章では前述の制約として設計判断に結び付ける。
 - イ．同じ文章を全て残す。
 - ウ．停止時間を全て削除する。
 - エ．章ごとに別の値に変える。

答え・解説

正答：ア

- ア：重要前提を残しつつ文字数を設計論点へ使える。
イ：文字数を浪費する。
ウ：判断根拠がなくなる。
エ：整合性を失う。
- 総合解説：前提は初出で明確にし、再登場時は新しい論点へ進める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0026

企画・要件定義テーマ > 業務ニーズ・現状課題 | 難易度：標準

- 小売企業が『欠品による販売機会損失を半減する』ことを目標に在庫システムを刷新する。最も適切な要件化はどれか。
- ア．クラウド利用だけを要件にする。
 - イ．欠品率の算出方法と目標、在庫更新の鮮度、補充判断に必要な情報を具体化する。
 - ウ．画面色を会社ロゴと同じにする。
 - エ．DB製品名を業務部門に決めてもらう。

答え・解説

正答：イ

- ア：手段が先で目標との関係がない。
イ：業務目標を測定可能な指標と機能・情報要件へ結び付けている。
ウ：主要目標への寄与が小さい。
エ：製品選定を業務要件と混同している。
- 総合解説：企画・要件定義では業務目標→指標→必要機能・データの因果を示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0027

企画・要件定義テーマ > 業務ニーズ・現状課題 | 難易度：標準

受注登録に平均15分かかる。現状分析として最も有効なのはどれか。

- ア．受注登録は遅いとだけ書く。
- イ．担当者が忙しいからだと推測する。
- ウ．顧客情報を三つのシステムへ重複入力し、照合にも時間がかかることが主因と測定した。
- エ．新システムなら速くなるはずとする。

答え・解説

正答：ウ

ア：症状の言い換えである。
イ：根拠がない。
ウ：時間の内訳と原因が明確で改善要件の根拠になる。
エ：解決策から原因を逆算している。
総合解説：現状課題は事象・原因・業務影響を分けて把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0028

企画・要件定義テーマ > 業務ニーズ・現状課題 | 難易度：標準

営業改革の目標が『受注率向上』である。最も直接的なKPIはどれか。

- ア．サーバCPU温度。
- イ．開発者の席数。
- ウ．ソースコードのファイル数。
- エ．案件数に対する受注件数の割合を営業チャネル別に算出する。

答え・解説

正答：エ

ア：技術運用指標である。
イ：業務成果を示さない。
ウ：開発量であり営業成果ではない。
エ：業務目標の達成度を直接測れる。
総合解説：2025年度採点講評でも、業務目標と指標の関係の明確化が重視されている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0029

企画・要件定義テーマ > 業務ニーズ・現状課題 | 難易度：基礎

紙申請で承認待ちの所在が分からない。To-Beとして最も本質的なのはどれか。

ア．申請状態・承認者・滞留時間を管理し、承認経路と可視化方法を再設計する。

イ．紙をPDF化するだけにする。

ウ．フォントだけ変更する。

エ．全申請を一人の承認者へ集中する。

答え・解説

正答：ア

ア：所在不明と滞留という原因に直接作用する。

イ：課題が残る可能性が高い。

ウ：本質的な課題に作用しない。

エ：新たなボトルネックを作る。

総合解説：To-Beは現行手順の単純電子化ではなく、課題原因を除く業務プロセスとして設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0030

企画・要件定義テーマ > 業務ニーズ・現状課題 | 難易度：応用

利用者が『検索結果を全部CSV出力したい』と要望したが、個人情報大量持出しリスクがある。適切な要件定義はどれか。

ア．要望どおり全件無制限出力にする。

イ．利用目的を確認し、必要項目・件数・権限・監査を絞った出力要件に再定義する。

ウ．CSV機能を一律禁止する。

エ．利用者要望は全てそのまま採用する。

答え・解説

正答：イ

ア：セキュリティ要件を無視する。

イ：背景目的とリスクを確認し価値と統制を両立している。

ウ：必要な業務価値まで失う可能性がある。

エ：要望と要件を同一視している。

総合解説：要求獲得では表面的な機能要望の背後にある目的を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0031

企画・要件定義テーマ > 業務ニーズ・現状課題 | 難易度：標準

現状課題が20件ある。優先順位の付け方として最も適切なのはどれか。

ア．声大きい担当者順にする。

イ．見つけた順に全て最優先にする。

ウ．業務影響、発生頻度、法令・契約上の必須性、改善効果で評価する。

エ．技術的に面白い順にする。

答え・解説

正答：ウ

ア：利害関係者の偏りを受けやすい。

イ：優先順位になっていない。

ウ：複数課題を比較できる客観軸がある。

エ：業務価値と一致しない。

総合解説：優先順位は理由を説明できる評価軸で決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0032

企画・要件定義テーマ > 業務ニーズ・現状課題 | 難易度：標準

現状入力が1件12分、月5,000件で、新システム目標は1件7分である。効果見積りとして適切なのはどれか。

ア．何となく大幅改善とする。

イ．月5,000件を無視する。

ウ．サーバ台数だけで効果を表す。

エ．1件5分短縮×5,000件で、月25,000分の削減を目標効果とする。

答え・解説

正答：エ

ア：定量性がない。

イ：全体効果を算定できない。

ウ：業務工数削減を直接示さない。

エ：単位時間と件数を用いて検証可能な業務効果を示している。

総合解説：基準値・業務量・目標値を明示すると事後評価につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0033

企画・要件定義テーマ > 業務ニーズ・現状課題 | 難易度：標準

配送遅延の主因が、配送計画確定後に在庫不足が判明して再計画になることであった。適切な要件はどれか。

- ア．配送計画確定前に利用可能在庫を照会・引当てし、不足時は代替処理へ進む。
- イ．遅延画面を赤色にする。
- ウ．再計画件数を隠す。
- エ．在庫を確認せず計画処理だけ高速化する。

答え・解説

正答：ア

ア：遅延の根本原因へ直接作用する。

イ：可視化だけで原因を除かない。

ウ：問題を隠すだけである。

エ：誤計画を増やす可能性がある。

総合解説：現状課題の根本原因を業務プロセスと情報タイミングから要件化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0034

企画・要件定義テーマ > 業務ニーズ・現状課題 | 難易度：基礎

通常受注は自動承認できるが、高額・新規顧客・与信保留では人の確認が必要である。適切な要件はどれか。

- ア．全件を人手承認へ戻す。
- イ．通常条件と例外条件を明文化し、例外だけ人手承認へ回す判定ルールを定義する。
- ウ．全件を無条件自動承認する。
- エ．例外条件を担当者の勘に任せる。

答え・解説

正答：イ

ア：自動化効果を失う。

イ：効率化とリスク統制を条件分岐で両立する。

ウ：高リスク案件を統制できない。

エ：再現可能な要件にならない。

総合解説：業務自動化では通常系だけでなく例外・境界条件も要件に含める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0035

企画・要件定義テーマ > 業務ニーズ・現状課題 | 難易度：応用

改革目的は受注から請求までのリードタイム短縮だが、物流実績は外部3PLが管理している。適切なスコープはどれか。

- ア．自社内だけを見て3PL連携を無視する。
- イ．3PLの全社システムを自社が全面刷新する。
- ウ．自社受注・請求に加え、必要な3PL実績連携を含めて情報境界を定義する。
- エ．物流実績は毎回電話で確認する。

答え・解説

正答：ウ

ア：ボトルネックが残る。

イ：責任範囲を超える。

ウ：業務目標達成に必要な外部情報を含めつつ責任境界を守る。

エ：自動化を阻害する。

総合解説：システム化範囲は組織境界ではなく、業務目標達成に必要な情報・連携で決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0036

企画・要件定義テーマ > 利害関係者・制約・合意形成 | 難易度：標準

営業部は入力項目削減、審査部は審査情報追加を求めている。適切な合意形成はどれか。

- ア．営業部だけを採用する。
- イ．審査部だけを採用する。
- ウ．両方の要求を全て追加する。
- エ．共通の業務目標とリスクを確認し、必須項目と条件付き項目を整理して受入れ基準を合意する。

答え・解説

正答：エ

ア：審査リスクを無視する。

イ：営業効率を無視する。

ウ：相反を解消していない。

エ：背景目的を比較し負担と統制を両立している。

総合解説：合意形成では立場ではなく背景目的・制約・優先順位を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0037

企画・要件定義テーマ > 利害関係者・制約・合意形成 | 難易度：標準

利用部門はログを30日で削除したいが、契約上は1年間保存が必要である。適切な判断はどれか。

ア．契約上の保存期間を必須制約として扱い、保存コストや検索性を考慮して方式を決める。

イ．30日で削除する。

ウ．口頭記録で代替する。

エ．要件定義後まで契約を確認しない。

答え・解説

正答：ア

ア：外部制約を方式選択の前提としている。

イ：契約違反となる。

ウ：証跡要件を満たさない。

エ：後工程で手戻りになる。

総合解説：法令・契約などの制約は任意要求と区別して早期に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0038

企画・要件定義テーマ > 利害関係者・制約・合意形成 | 難易度：標準

経営層は在庫20%削減、現場は欠品防止を重視する。適切な要件定義はどれか。

ア．在庫削減だけを最適化する。

イ．在庫削減率と欠品率の双方を指標化し、補充ロジックの評価条件として合意する。

ウ．在庫を無制限に増やす。

エ．数値化せず『バランスを取る』だけにする。

答え・解説

正答：イ

ア：現場運用を損なう。

イ：相反する目標を同時に測れる評価軸へ変換している。

ウ：経営目標に反する。

エ：判断基準が曖昧である。

総合解説：異なる階層の要求はKPIや制約値に落とし、トレードオフを明示する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0039

企画・要件定義テーマ > 利害関係者・制約・合意形成 | 難易度：基礎

要件レビュー後に『その条件は聞いていない』と争いになった。再発防止はどれか。

ア．参加者の記憶に任せる。

イ．要件文書を上書きし履歴を残さない。

ウ．要件・前提・未決事項・承認者を版管理し、変更差分も追跡する。

エ．未決事項も合意済みとする。

答え・解説

正答：ウ

ア：認識差を解消できない。

イ：変更履歴を追えない。

ウ：何を誰がいつ合意したか再現できる。

エ：後で争点になる。

総合解説：合意形成は会議だけでなく記録・版・承認を含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0040

企画・要件定義テーマ > 利害関係者・制約・合意形成 | 難易度：応用

24時間店舗では端末停止を伴う更新が難しい。適切な導入方式検討はどれか。

ア．日中に一斉停止する。

イ．停止時間要件を削除する。

ウ．切替え当日に初めて現場へ知らせる。

エ．低負荷時間、ローリング更新、冗長構成を比較し許容停止時間に適合する方式を合意する。

答え・解説

正答：エ

ア：業務継続要件を満たさない。

イ：要求を都合よく消している。

ウ：準備と合意が不足する。

エ：運用制約を方式比較の評価軸にしている。

総合解説：制約はアーキテクチャ方式を選ぶ評価条件として扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0041

企画・要件定義テーマ > 利害関係者・制約・合意形成 | 難易度：標準

顧客向け申請電子化で営業・開発だけが参加している。追加確認すべき関係者はどれか。

ア．審査・法務・運用・情報セキュリティなど申請処理や統制に責任を持つ部門。

イ．ロゴ制作会社だけ。

ウ．無関係な全部署。

エ．関係者を追加しない。

答え・解説

正答：ア

ア：必須制約や運用要件の漏れを減らせる。

イ：主要要件の責任者ではない。

ウ：無差別に増やす必要はない。

エ：重要要求が漏れる。

総合解説：利用者だけでなく承認・監査・運用・セキュリティ責任者まで確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0042

企画・要件定義テーマ > 利害関係者・制約・合意形成 | 難易度：標準

法改正施行まで4か月で全機能刷新は間に合わない。適切な合意はどれか。

ア．テストを全て省いて全機能を出す。

イ．施行日に必須な法対応を優先し、その他を段階リリースする計画と残存リスクを合意する。

ウ．法対応を後回しにする。

エ．期限を無視して完成まで公開しない。

答え・解説

正答：イ

ア：重大障害リスクが高い。

イ：期限・スコープ・品質を現実的に調整している。

ウ：外部制約に反する。

エ：必要時期に間に合わない。

総合解説：固定期限では品質を削るよりスコープや段階化を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0043

企画・要件定義テーマ > 利害関係者・制約・合意形成 | 難易度：標準

可用性99.99%案は費用が大幅に増える。適切な合意形成はどれか。

ア．インフラ担当だけで決める。

イ．100%を要求する。

ウ．業務責任者と停止時の影響・許容停止時間を確認し、費用とのトレードオフを合意する。

エ．費用を隠す。

答え・解説

正答：ウ

ア：業務価値を決められない。

イ：現実性と費用対効果を欠く。

ウ：可用性水準を業務価値と投資額で意思決定できる。

エ：合意形成にならない。

総合解説：非機能要件も業務価値に換算して必要水準を合意する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0044

企画・要件定義テーマ > 利害関係者・制約・合意形成 | 難易度：基礎

SaaS障害時の一次切分け、バックアップ、アカウント管理の責任が曖昧である。適切な対応はどれか。

ア．全責任はSaaS事業者と勝手に決める。

イ．全責任は自社と決め契約を見ない。

ウ．障害後に初めて協議する。

エ．自社とSaaS事業者の責任分界を項目別に明確にし、契約・運用手順・連絡経路へ反映する。

答え・解説

正答：エ

ア：契約と異なる可能性がある。

イ：実施権限と一致しない。

ウ：復旧が遅れる。

エ：共有責任を具体化し運用の抜けを防ぐ。

総合解説：外部サービスでは責任分界を要件定義時から確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0045

企画・要件定義テーマ > 利害関係者・制約・合意形成 | 難易度：応用

二部門の要求が両立せず現場会議で決められない。適切な対応はどれか。

- ア．選択肢ごとの業務影響・コスト・リスクを整理し、権限を持つ意思決定者へ判断を求める。
- イ．設計者が秘密裏に決める。
- ウ．両方を実装する。
- エ．曖昧なまま開発へ渡す。

答え・解説

正答：ア

ア：決定権限と比較情報をそろえ正式合意へ進める。

イ：ガバナンスを欠く。

ウ：矛盾とコストが増える。

エ：後工程の手戻りを招く。

総合解説：合意できない事項は客観情報とともに適切な決定権限へ上げる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0046

企画・要件定義テーマ > 要件定義・変更・トレードオフ | 難易度：基礎

開発中に『検索結果をリアルタイム化したい』という変更要求が出た。適切な手順はどれか。

- ア．全て即時実装する。
- イ．データ更新方式、性能、外部API負荷、工期・費用への影響を分析し、優先度と受入れ条件を再合意する。
- ウ．影響分析せず却下する。
- エ．画面だけ変える。

答え・解説

正答：イ

ア：スコープを制御できない。

イ：変更が複数要件へ与える影響を見ている。

ウ：業務価値を評価できない。

エ：要求を満たさない。

総合解説：変更管理は影響分析・代替案・優先順位・承認まで含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0047

企画・要件定義テーマ > 要件定義・変更・トレードオフ | 難易度：標準

応答目標を1秒から0.2秒へ上げると費用3倍だが、業務上1秒で十分である。適切な判断はどれか。

ア．速い方が良いので0.2秒にする。

イ．費用だけ見て10秒へ緩和する。

ウ．業務価値が増えないなら1秒目標を維持し、余分な投資を避ける。

エ．目標を定めない。

答え・解説

正答：ウ

ア：過剰品質になり得る。

イ：業務要件を損なう。

ウ：必要十分な品質水準とコストを両立している。

エ：合否判定できない。

総合解説：非機能要件は高ければ良いのではなく業務価値に見合う水準を設定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0048

企画・要件定義テーマ > 要件定義・変更・トレードオフ | 難易度：標準

納期直前に追加要望10件が出た。全実装すると品質確認期間が半減する。適切な対応はどれか。

ア．全件追加しテストを半減する。

イ．全件拒否する。

ウ．優先順位なしで実装する。

エ．必須・高価値・延期可能に分類し、品質確認期間を維持できる範囲でスコープを再合意する。

答え・解説

正答：エ

ア：障害リスクが上がる。

イ：有益な変更まで失う。

ウ：重要要件が漏れる。

エ：納期・品質・価値のトレードオフを管理している。

総合解説：変更要求は既存要件の優先度と合わせてスコープを再調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0049

企画・要件定義テーマ > 要件定義・変更・トレードオフ | 難易度：基礎

分析部門は永久保存、法務は最低7年、コスト担当は3年を希望する。適切な要件はどれか。

- ア．法的最低条件を満たし、分析価値と保管コストを期間・粒度・アーカイブ方式で比較して合意する。
- イ．3年だけ保存する。
- ウ．永久保存を無条件採用する。
- エ．後で決める。

答え・解説

正答：ア

ア：必須制約を守りつつ可変要求を調整している。

イ：法的要件を満たさない。

ウ：過剰コストになり得る。

エ：容量設計に影響するため先送りは危険である。

総合解説：絶対制約と可変要求を分けて代替案を作る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0050

企画・要件定義テーマ > 要件定義・変更・トレードオフ | 難易度：応用

業務ルールR-12廃止時にトレーサビリティが有効な理由はどれか。

- ア．要件IDを増やすため。
- イ．R-12に依存する機能・画面・テスト・運用手順を追跡し、変更影響を確認できる。
- ウ．変更を隠すため。
- エ．テスト不要にするため。

答え・解説

正答：イ

ア：IDは手段である。

イ：要件と成果物の関係から影響範囲を特定できる。

ウ：合意形成と逆行する。

エ：回帰確認は必要である。

総合解説：トレーサビリティは変更影響・回帰テスト・合意確認に活用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0051

企画・要件定義テーマ > 要件定義・変更・トレードオフ | 難易度：基礎

全操作で毎回MFAを求めると倉庫作業が著しく遅くなる。適切な要件調整はどれか。

ア．MFAを完全廃止する。

イ．全操作で毎回認証する。

ウ．高リスク操作や再認証条件を定め、端末・セッション管理と組み合わせて必要な安全性を確保する。

エ．共通アカウントにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：高リスク操作を保護できない。

イ：利用性を過度に損なう。

ウ：リスクに応じた認証強度と業務性を両立している。

エ：本人性と追跡性を失う。

総合解説：セキュリティ要件も業務コンテキストとリスクに応じて設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0052

企画・要件定義テーマ > 要件定義・変更・トレードオフ | 難易度：標準

『100億件を1秒以内に任意条件検索、費用は現状同額』という要求が出た。適切な対応はどれか。

ア．確認せず約束する。

イ．技術検討不要とする。

ウ．検索条件を勝手に削る。

エ．本番相当条件でPoC・見積りを行い、必要なら要求水準や方式を再協議する。

答え・解説

正答：エ

ア：実現不能リスクが高い。

イ：アーキテクトの役割を放棄している。

ウ：要件変更の合意がない。

エ：技術・費用面の不確実性を検証し合意可能な代替案へつなげる。

総合解説：難しい要件はPoC・ベンチマーク・見積りで不確実性を減らす。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0053

企画・要件定義テーマ > 要件定義・変更・トレードオフ | 難易度：標準

本番切替え2週間前の変更凍結中に大規模帳票追加要求が出た。適切な判断はどれか。

- ア．緊急性・法的必須性・影響を評価し、原則は次期へ送り、例外時は正式承認と追加テストを行う。
- イ．無条件に入れる。
- ウ．内容を見ず全て拒否する。
- エ．開発者だけで決める。

答え・解説

正答：ア

ア：凍結目的を守りつつ例外統制を残している。

イ：品質を損なう。

ウ：本当に必須な変更へ対応できない。

エ：統制がない。

総合解説：変更凍結は例外条件・承認権限・追加検証を明確にした管理である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0054

企画・要件定義テーマ > 要件定義・変更・トレードオフ | 難易度：基礎

オンプレ継続とクラウド移行を比較する。適切な比較軸はどれか。

- ア．流行度だけ。
- イ．可用性、性能、移行期限、運用要員、法令・データ所在地、費用など案件要件に関係する軸。
- ウ．担当者の好みだけ。
- エ．広告文句の数。

答え・解説

正答：イ

ア：案件適合を評価できない。

イ：方式差が要件・制約へ与える影響を比較できる。

ウ：客観性がない。

エ：比較基準にならない。

総合解説：同じ評価軸で代替案を比較し、何を優先したか説明する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0055

企画・要件定義テーマ > 要件定義・変更・トレードオフ | 難易度：応用

検索対象を国内顧客から全世界顧客へ拡大する変更が承認された。適切な後続対応はどれか。

ア．要件文書だけ変えテストは旧条件のまま。

イ．検索結果が出れば品質を見ない。

ウ．データ量・文字種・応答時間・アクセス権など影響する受入れ基準とテスト条件を更新する。

エ．本番担当へ伝えない。

答え・解説

正答：ウ

ア：新要件を確認できない。

イ：利用可能性を保証できない。

ウ：変更を検証可能な基準まで反映している。

エ：運用準備が不足する。

総合解説：変更は要件だけで閉じず設計・テスト・運用へトレースする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0056

アーキテクチャ設計テーマ > システム方式・技術選択 | 難易度：基礎

注文確定は3秒以内、配送会社への通知は10分以内でよく、配送会社障害で注文受付を止めたくない。適切な方式はどれか。

ア．配送会社APIの応答を無期限に待つ。

イ．全処理を一つの分散トランザクションに固定する。

ウ．通知失敗時に注文データを削除する。

エ．注文確定と配送通知を分離し、配送通知は永続キューを用いた非同期処理とする。

答え・解説

正答：エ

ア：外部障害が注文受付へ伝播する。

イ：結合度が高く可用性を損なう。

ウ：業務事実を失う。

エ：許容遅延があり障害分離が必要なので非同期化が適合する。

総合解説：方式は応答時間・整合性・障害影響などの要件から選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0057

アーキテクチャ設計テーマ>システム方式・技術選択 | 難易度：標準

小規模社内申請で機能数が少なく変更頻度も低い。マイクロサービス化すると運用基盤が大きく増える。適切な判断はどれか。

- ア．独立変更・独立スケール等の利点が必要か評価し、不要なら単純な構成を選ぶ。
- イ．新技術なので必ずマイクロサービスにする。
- ウ．モノリスは禁止する。
- エ．サービス数を増やすほど品質が上がる。

答え・解説

正答：ア

ア：複雑性コストと必要な利点を比較している。

イ：技術先行である。

ウ：要件無視である。

エ：分割数と品質は比例しない。

総合解説：方式選択では構造上の利点と運用・開発複雑性をトレードオフとして扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0058

アーキテクチャ設計テーマ>システム方式・技術選択 | 難易度：標準

日次請求バッチは翌6時まで完了し、VIP顧客の請求を先に確定したい。適切な設計検討はどれか。

- ア．サーバ増設だけで処理方式を検討しない。
- イ．業務優先度に基づく処理順、分割単位、並列度、再実行単位を設計し処理時間を検証する。
- ウ．全件を巨大トランザクションで処理する。
- エ．VIP優先の理由を示さずランダム順にする。

答え・解説

正答：イ

ア：設計上の工夫にならない。

イ：業務優先度と時間制約を処理設計へ反映している。

ウ：障害影響と再実行性が悪い。

エ：業務要件を反映しない。

総合解説：2024年度採点講評でも、業務特性・制約を踏まえたバッチ設計の工夫が重視された。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0059

アーキテクチャ設計テーマ> システム方式・技術選択 | 難易度：基礎

生成AIを問い合わせ業務へ適用する。適切な採用理由はどれか。

ア．話題だから。

イ．競合が使っているから。

ウ．過去回答検索に時間がかかる業務を対象に、回答候補生成で平均処理時間を短縮できるとPoCで確認したため。

エ．技術名を書くと高度に見えるから。

答え・解説

正答：ウ

ア：業務価値の根拠がない。

イ：自社要件への適合を確認していない。

ウ：業務課題・適用方式・検証結果がつながっている。

エ：設計判断ではない。

総合解説：先進技術も業務目的と適用条件を明確にし、採用理由を検証可能にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0060

アーキテクチャ設計テーマ> システム方式・技術選択 | 難易度：応用

ECサイトは平常100req/s、セール時だけ2,000req/sへ急増し、処理はステータス化できる。適切な方式はどれか。

ア．最大負荷分を常時固定稼働するしかない。

イ．単一サーバのCPUを無制限に増やす。

ウ．セール時は利用者にアクセスを控えてもらう。

エ．需要に応じて台数を増減する水平スケールを採用し、負荷試験で立上り時間を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：過剰コストになり得る。

イ：物理的限界がある。

ウ：業務目標を満たさない。

エ：変動負荷とステータス性を活かせる。

総合解説：スケーラビリティは負荷パターン・状態・増設時間・コストで評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0061

アーキテクチャ設計テーマ> システム方式・技術選択 | 難易度：基礎

SaaS標準で業務の90%を満たすが、残り10%は重要な独自承認規則である。適切な判断はどれか。

ア．独自規則の価値と変更可能性を確認し、設定・周辺機能・業務変更の代替案を比較する。

イ．10%差があるので即スクラッチ開発する。

ウ．重要な統制も無条件で廃止する。

エ．差異を確認せず契約する。

答え・解説

正答：ア

ア：残るギャップの重要性和実現方法を比較している。

イ：過剰開発になり得る。

ウ：必須要件を損なう。

エ：手戻りを招く。

総合解説：パッケージ・SaaSではフィット率だけでなく重要ギャップと代替策を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0062

アーキテクチャ設計テーマ> システム方式・技術選択 | 難易度：標準

会員ランク変更後、特典更新・通知・分析更新を各サービスが独立して行い、送信元は完了待ち不要である。適切な方式はどれか。

ア．送信元が全サービスを順番に同期呼出しする。

イ．ランク変更イベントを発行し、各サービスが購読する疎結合な方式を検討する。

ウ．全サービスが同じDB表を直接更新する。

エ．通知失敗でランク変更も必ず取消す。

答え・解説

正答：イ

ア：障害伝播と待ち時間が増える。

イ：独立した後続処理と許容遅延に適合する。

ウ：強い共有依存になる。

エ：必要以上に業務原子性を強める。

総合解説：イベント方式では疎結合性と引換えに、順序・重複・遅延も設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0063

アーキテクチャ設計テーマ>システム方式・技術選択 | 難易度：標準

商品説明は1日数回しか変わらず参照が多いが、在庫数は秒単位で変動する。適切な設計はどれか。

ア．全データを24時間キャッシュにする。

イ．在庫も古くてよいとする。

ウ．商品説明はTTL付きキャッシュを使い、在庫数は必要な鮮度に応じ別方式で取得する。

エ．商品説明も毎回遠隔DBへ直接照会する。

答え・解説

正答：ウ

ア：在庫誤表示リスクが高い。

イ：業務要件を無視する。

ウ：データごとの更新頻度と鮮度要求に応じている。

エ：不要な負荷を増やす。

総合解説：キャッシュは整合性・鮮度・失効方式をデータ特性ごとに決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0064

アーキテクチャ設計テーマ>システム方式・技術選択 | 難易度：基礎

月に数回だけ発生する短時間の画像変換で、アイドル時コストを抑えたい。実行時間は制限内である。適切な選択はどれか。

ア．常時最大性能の専用サーバを必ず置く。

イ．サーバレスなら制限確認は不要。

ウ．長時間状態保持が必須でも無条件採用する。

エ．イベント起動型サーバレスを候補とし、実行時間・同時数・コールドスタートを評価する。

答え・解説

正答：エ

ア：過剰コストになりやすい。

イ：サービス制約を無視している。

ウ：適用条件を満たさない可能性がある。

エ：低頻度・短時間・イベント起動に適合しやすい。

総合解説：技術選択は処理時間・状態・起動頻度・制限・運用性で評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0065

アーキテクチャ設計テーマ> システム方式・技術選択 | 難易度：応用

安定稼働する基幹DBは残し、顧客向け機能だけ迅速に刷新したい。適切な方式はどれか。

- ア．既存DBアクセスをAPI等で境界化し、新機能を段階的に分離する。
- イ．既存DBを初日に無条件廃止する。
- ウ．新機能から既存DB内部表へ自由に直接アクセスさせる。
- エ．刷新を10年間延期する。

答え・解説

正答：ア

ア：既存資産を活かしつつ依存境界を管理できる。

イ：移行リスクが大きい。

ウ：結合度が高まる。

エ：改善を実現できない。

総合解説：段階刷新では残す資産・切り離す境界・移行順序を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0066

アーキテクチャ設計テーマ> システム方式・技術選択 | 難易度：基礎

複数環境で同じ実行環境を再現し、短いリリース周期を支援したい。適切なコンテナ採用理由はどれか。

- ア．障害が絶対に起きないから。
- イ．アプリと依存ライブラリをイメージ化し、環境差を抑えたデプロイと自動化を行いやすいから。
- ウ．DBバックアップが不要になるから。
- エ．認証が不要になるから。

答え・解説

正答：イ

ア：可用性を保証しない。

イ：環境再現性とデプロイ標準化という具体的効果がある。

ウ：データ保護は別要件である。

エ：認証要件とは無関係である。

総合解説：技術の一般的長所ではなく、自案件の課題に対応する性質を採用理由にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0067

アーキテクチャ設計テーマ> システム方式・技術選択 | 難易度：標準

新検索エンジンで100億件を2秒以内に検索できるか不確実である。PoCで最も重要なのはどれか。

ア．少量データで画面が開くことだけ確認する。

イ．ベンダ資料だけで判断する。

ウ．本番相当データ量・検索条件・同時実行数で目標を満たすか測定する。

エ．目標値なしで『速い』が見える。

答え・解説

正答：ウ

ア：本番性能を推定できない。

イ：自環境への適合を確認できない。

ウ：採用判断上の不確実性を本番条件に近い形で検証できる。

エ：合否基準がない。

総合解説：PoCは技術紹介ではなく、方式選定の不確実性を評価項目で減らすために行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0068

アーキテクチャ設計テーマ> データ・インタフェース・連携 | 難易度：標準

顧客住所をCRMと請求システム双方で更新でき、不一致が発生している。適切な設計はどれか。

ア．双方を正本のままにする。

イ．毎晩ランダムに片方を上書きする。

ウ．住所項目を削除する。

エ．顧客住所の正本を一つ決め、変更イベント又はAPIで他システムへ同期する。

答え・解説

正答：エ

ア：競合更新が残る。

イ：正しい値を保証できない。

ウ：業務要件を満たさない。

エ：更新責任を一元化し不整合の根本原因を除く。

総合解説：複数システムでは属性ごとの正本・更新方向・競合時処理を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0069

アーキテクチャ設計テーマ> データ・インタフェース・連携 | 難易度：基礎

外部APIで注文登録する。インタフェース定義で必須なのはどれか。

- ア．入力・出力項目、型、必須条件、エラー、認証、幂等性、バージョン方針。
- イ．URLだけ。
- ウ．画面デザインだけ。
- エ．開発者の氏名だけ。

答え・解説

正答：ア

ア：提供側と利用側が同じ契約で実装・テストできる。

イ：業務条件を定義できない。

ウ：API契約ではない。

エ：仕様の本質ではない。

総合解説：正常系だけでなくエラー・再送・互換性まで含める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0070

アーキテクチャ設計テーマ> データ・インタフェース・連携 | 難易度：応用

旧システムは月次商品売上、新システムは日次店舗商品売上を必要とする。旧データだけで過去の日次店舗値を復元できない。適切な判断はどれか。

- ア．主キーを追加すれば復元できるとする。
- イ．不足粒度を明示し、追加データ源、集計粒度の変更、過去データの扱いを業務側と合意する。
- ウ．月次値を無条件に均等配分する。
- エ．不足を隠して移行完了とする。

答え・解説

正答：イ

ア：失われた事実は生成できない。

イ：存在しない情報を明示し代替案を合意している。

ウ：仮定値を実績として扱う。

エ：誤判断につながる。

総合解説：データ移行では構造差だけでなく粒度・意味・履歴の差異も確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0071

アーキテクチャ設計テーマ> データ・インタフェース・連携 | 難易度：基礎

注文確定には与信結果が必須だが、分析反映は1時間以内でよい。適切な方式はどれか。

ア．両方を同期にする。

イ．与信も後で確認する。

ウ．与信は同期確認し、分析反映はイベント等で非同期化する。

エ．分析失敗で注文を必ず取消す。

答え・解説

正答：ウ

ア：不要な障害伝播を招く。

イ：業務要件に反する。

ウ：業務原子性と許容遅延の違いを反映している。

エ：分析系を過度に結合する。

総合解説：連携方式は処理ごとに整合性要求・応答時間・障害影響を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0072

アーキテクチャ設計テーマ> データ・インタフェース・連携 | 難易度：標準

メッセージブローカが少なくとも1回配送で、同じ出荷イベントが再送される可能性がある。適切な受信設計はどれか。

ア．再送は起きない前提にする。

イ．再送ごとに在庫を減らす。

ウ．重複時に全履歴を削除する。

エ．イベントID又は業務IDで処理済みを判定し、副作用を重複させない。

答え・解説

正答：エ

ア：不整合が起きる。

イ：二重処理になる。

ウ：正常履歴まで失う。

エ：配送保証の性質を踏まえ受信処理を冪等化している。

総合解説：イベント方式では配送保証に応じて重複・順序・再送を設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0073

アーキテクチャ設計テーマ> データ・インタフェース・連携 | 難易度：標準

イベントに新しい任意項目を追加するが、旧受信サービスを同時改修できない。適切な設計はどれか。

ア．旧受信側が未知の任意項目を無視せる契約にし、互換性を確認して段階展開する。

イ．必須項目の意味を予告なく変える。

ウ．全受信側停止まで変更を禁止する。

エ．同じ項目名の型を予告なく変える。

答え・解説

正答：ア

ア：後方互換性を保ちながら段階的に進化できる。

イ：既存処理を破壊する。

ウ：必要以上に変更を止める。

エ：契約違反になりやすい。

総合解説：インタフェース進化では互換性ルール・バージョン・移行期間を設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0074

アーキテクチャ設計テーマ> データ・インタフェース・連携 | 難易度：基礎

レビュー件数は数秒遅れてもよいが二重決済は許されない。適切な設計はどれか。

ア．全データを同じ整合性方式にする。

イ．レビュー集計は結果整合性を許容し、決済は冪等性や一意制約で厳格に重複防止する。

ウ．決済も後で重複を消せばよいとする。

エ．レビュー件数のため全システム停止を許容する。

答え・解説

正答：イ

ア：過剰又は不足になりやすい。

イ：業務重要度に応じ必要な整合性水準を分けている。

ウ：金銭処理の正確性を損なう。

エ：業務価値に対して過剰である。

総合解説：一貫性モデルは遅延・誤差を許容できるかで選択する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0075

アーキテクチャ設計テーマ> データ・インタフェース・連携 | 難易度：応用

毎夜の仕訳CSV取込みで途中失敗し、再実行すると二重登録の恐れがある。適切な設計はどれか。

ア．失敗時は全件を追加登録する。

イ．二重登録は月末に人が探す。

ウ．ファイルID・レコードIDと処理状態を管理し、再実行時に処理済みを識別する。

エ．処理ログを残さない。

答え・解説

正答：ウ

ア：重複が増える。

イ：運用負荷が高い。

ウ：再実行時の重複を制御し処理位置を追跡できる。

エ：復旧判断ができない。

総合解説：バッチ・ファイル連携では再開点、重複防止、エラー隔離、照合を設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0076

アーキテクチャ設計テーマ> データ・インタフェース・連携 | 難易度：基礎

通知サービス障害が主取引APIまで停止させている。通知は取引後5分以内でよい。適切な改善はどれか。

ア．通知完了まで無期限待機する。

イ．通知障害時は取引を削除する。

ウ．通知ログを止める。

エ．主取引と通知をキューで分離し、通知失敗は再送・監視する。

答え・解説

正答：エ

ア：障害伝播が続く。

イ：業務事実を失う。

ウ：原因追跡が難しくなる。

エ：許容遅延を使って依存を分離し主業務可用性を高める。

総合解説：外部連携は重要度と同期必要性を分類し、障害波及を設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0077

アーキテクチャ設計テーマ> データ・インタフェース・連携 | 難易度：標準

本番顧客データで性能試験したい。適切な設計はどれか。

- ア．本番相当の分布を保ちつつ個人を特定できないようマスキング・合成し、アクセス制御する。
- イ．本番個人情報をそのままコピーする。
- ウ．テスト環境はアクセス制御不要とする。
- エ．個人情報をメール添付で配る。

答え・解説

正答：ア

ア：性能条件と情報保護を両立している。

イ：漏えいリスクが高い。

ウ：環境に関係なく保護は必要。

エ：統制された連携ではない。

総合解説：テストデータでも個人情報・機密情報の最小化と統制を考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0078

アーキテクチャ設計テーマ> データ・インタフェース・連携 | 難易度：標準

経営指標が誤った際、元データ・変換式・集計処理のどこで誤りが生じたか追跡したい。適切な設計はどれか。

- ア．最終値だけ保存する。
- イ．指標から元データ源、変換規則、処理履歴まで追跡できるメタデータを管理する。
- ウ．変換式を個人メモだけにする。
- エ．元データ所在を記録しない。

答え・解説

正答：イ

ア：原因を遡れない。

イ：生成経路を追跡でき品質問題の原因分析が可能になる。

ウ：組織的再現性がない。

エ：指標の信頼性を説明できない。

総合解説：複数データ源を使う指標ではデータリネージが説明責任と品質管理に役立つ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0079

アーキテクチャ設計テーマ > 性能・可用性・セキュリティ | 難易度：基礎

オンライン検索の性能要件として最も適切なものはどれか。

ア．高速に動作すること。

イ．できるだけ待たせないこと。

ウ．通常負荷300同時利用時、95パーセンタイル応答時間を2秒以内とする。

エ．最新サーバを使うこと。

答え・解説

正答：ウ

ア：合否判定できない。

イ：曖昧である。

ウ：負荷条件・尺度・目標値が明確で検証可能である。

エ：手段であって性能目標ではない。

総合解説：非機能要件は条件と尺度を定量化し、設計・試験・評価を一貫させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0080

アーキテクチャ設計テーマ > 性能・可用性・セキュリティ | 難易度：応用

遅延時にCPU30%、DB接続待ち80%、接続プール上限到達が確認された。最初の対策検討はどれか。

ア．CPUを無条件に4倍へ増強する。

イ．画像を全て削除する。

ウ．ログを停止する。

エ．接続保持時間、プール設定、遅いSQLやトランザクションを調べDB接続待ちを解消する。

答え・解説

正答：エ

ア：CPUは余裕がある。

イ：DB待ちとの因果が弱い。

ウ：原因分析を難しくする。

エ：観測されたボトルネックへ直接対応している。

総合解説：性能対策は測定から主要因を特定して行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0081

アーキテクチャ設計テーマ > 性能・可用性・セキュリティ | 難易度：基礎

決済システムは最大15分の停止、データ損失は最大1分まで許容される。適切な定義はどれか。

ア．RTOを15分、RPOを1分として復旧・複製方式の評価基準にする。

イ．RTOを1分、RPOを15分とする。

ウ．RTO/RPOを決めない。

エ．両方0にすれば費用は考えなくてよい。

答え・解説

正答：ア

ア：停止許容時間とデータ損失許容量を正しく対応付けている。

イ：概念が逆である。

ウ：必要水準を判断できない。

エ：高コスト・実現困難な場合がある。

総合解説：可用性設計では業務影響からRTO/RPOを定義する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0082

アーキテクチャ設計テーマ > 性能・可用性・セキュリティ | 難易度：標準

Webサーバは冗長だが全通信が単一ロードバランサ1台を経由する。課題はどれか。

ア．Webサーバを100台に増やす。

イ．ロードバランサが単一障害点なので冗長化等を検討する。

ウ．ロードバランサのバックアップ取得だけで停止しないとする。

エ．障害監視をやめる。

答え・解説

正答：イ

ア：入口障害時に到達できない。

イ：入口に単一障害点が残っている。

ウ：バックアップは即時継続を保証しない。

エ：検知が遅れる。

総合解説：可用性は経路全体を見て依存する単一要素を洗い出す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0083

アーキテクチャ設計テーマ > 性能・可用性・セキュリティ | 難易度：標準

DB障害時に待機系へ自動切替えするが、複製遅延最大30秒で二重更新は許されない。必要な設計はどれか。

ア．両系で同時書込み可能にする。

イ．複製状態を確認せず即時切替える。

ウ．切替え条件、旧系の書込み停止確認、複製遅延時のデータ扱いを定義してスプリットブレインを防ぐ。

エ．差異は利用者に判断させる。

答え・解説

正答：ウ

ア：競合を招く。

イ：欠落や不整合の危険がある。

ウ：可用性とデータ一貫性を同時に管理している。

エ：統制された復旧にならない。

総合解説：フェイルオーバーでは速度だけでなく書込み権限と整合性も評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0084

アーキテクチャ設計テーマ > 性能・可用性・セキュリティ | 難易度：基礎

日次バックアップを取得しているが復元試験をしていない。重要な改善はどれか。

ア．バックアップ数だけ増やす。

イ．障害時に初めて復元する。

ウ．保存先を一つに集中する。

エ．定期的に復元し、所要時間・完全性・手順をRTO/RPOに照らして確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：復元可能性を保証しない。

イ：本番障害時のリスクが高い。

ウ：同一障害で失う可能性がある。

エ：バックアップが実際に復元可能か検証できる。

総合解説：可用性論文では取得方式だけでなく復元試験まで書く。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0085

アーキテクチャ設計テーマ > 性能・可用性・セキュリティ | 難易度：応用

経理担当は請求作成、責任者は取消承認、監査担当は参照のみ。適切な権限設計はどれか。

ア．役割ごとに必要操作を分離し、取消しは作成者単独で実行できないようにする。

イ．全員に管理者権限を与える。

ウ．共通IDを配る。

エ．監査担当にも取消権限を与える。

答え・解説

正答：ア

ア：最小権限と職務分離を業務へ反映している。

イ：権限過大である。

ウ：本人追跡ができない。

エ：監査役割を超える。

総合解説：アクセス制御は業務上の責任と牽制関係から設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0086

アーキテクチャ設計テーマ > 性能・可用性・セキュリティ | 難易度：基礎

公開APIで認証済み利用者の大量リクエストが他利用者を圧迫する。適切な対策はどれか。

ア．TLSを無効化する。

イ．利用者単位のレート制限、クォータ、監視を設けて過剰利用を隔離する。

ウ．全利用者を同じ管理者IDにする。

エ．ログを削除する。

答え・解説

正答：イ

ア：通信保護を弱める。

イ：原因である過剰リソース消費を利用者単位で制御できる。

ウ：追跡性を失う。

エ：原因を隠す。

総合解説：脅威シナリオと資産・攻撃面を結び、原因へ作用する対策を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0087

アーキテクチャ設計テーマ > 性能・可用性・セキュリティ | 難易度：標準

アプリがDB接続パスワードを必要とする。適切な設計はどれか。

ア．ソースコードへ平文で埋め込む。

イ．全社員共有ファイルに置く。

ウ．秘密管理サービス等に保管し、実行主体へ最小権限で取得させ、ローテーション可能にする。

エ．ログへ毎回出力する。

答え・解説

正答：ウ

ア：リボジトリ漏えい時に危険。

イ：閲覧範囲が過大。

ウ：露出を減らしアクセス制御と更新を管理できる。

エ：機密情報を拡散する。

総合解説：認証情報はコード・ログから分離し、保管・配布・更新・監査を設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0088

アーキテクチャ設計テーマ > 性能・可用性・セキュリティ | 難易度：標準

APIのSLOが月間可用性99.9%、95%応答2秒以内である。適切な監視はどれか。

ア．CPUだけ監視する。

イ．障害申告まで何も測らない。

ウ．平均応答時間だけを見る。

エ．成功率・応答時間分布・エラー率を測定し、SLO違反前の傾向もアラートする。

答え・解説

正答：エ

ア：CPUだけでは判断できない。

イ：予防的運用ができない。

ウ：95パーセンタイル要件を評価できない。

エ：利用者視点のサービス指標をSLOと直接照合できる。

総合解説：監視は内部資源だけでなく合意したサービスレベルへ直接対応させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0089

アーキテクチャ設計テーマ > 性能・可用性・セキュリティ | 難易度：基礎

公開Webで入力攻撃と認証情報悪用の双方を想定する。適切な設計はどれか。

ア．入力検証、認証強化、最小権限、WAF、監視・ログなど複数層で対策する。

イ．WAF一つだけで全攻撃を防ぐ。

ウ．認証があるので入力検証を省く。

エ．アプリが安全なので監視不要とする。

答え・解説

正答：ア

ア：異なる攻撃経路を複数層で抑制する。

イ：単一対策に依存する。

ウ：認証済み攻撃もあり得る。

エ：検知・追跡ができない。

総合解説：セキュリティは予防・検知・制限・復旧をアーキテクチャ全体で設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0090

アーキテクチャ設計テーマ > 性能・可用性・セキュリティ | 難易度：応用

強い暗号化でCPU負荷が増え応答目標を超えるが、機密情報保護は必須である。適切な判断はどれか。

ア．性能のため暗号化を削除する。

イ．セキュリティ要件を維持し、暗号方式・ハードウェア支援・キャッシュ・スケール等の代替案で性能目標も満たす。

ウ．暗号化したので性能目標を撤回する。

エ．どちらも測らず実装する。

答え・解説

正答：イ

ア：機密性要件に違反する。

イ：必須要件を捨てず複数要件の両立を図っている。

ウ：利用者要件を満たさない。

エ：可否判定できない。

総合解説：非機能要件が競合する場合は優先順位と代替案を示し、測定で成立性を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0091

開発・移行・運用テーマ > 開発方式・品質確保 | 難易度：標準

要件変化が大きい顧客向けサービスで、2週間ごとに実利用者のフィードバックを得られる。論文中の開発方式選択として最も妥当なのはどれか。

- ア．短い反復で機能を提供し、利用者の評価を次の反復へ反映する方式を採用する。
- イ．全要件を最初に固定し、利用者確認は本番直前だけにする。
- ウ．仕様変更を禁止して変更要求を全て却下する。
- エ．方式の理由を書かず『アジャイルだから』とだけ述べる。

答え・解説

正答：ア

ア：要件変化と継続的フィードバックという案件特性に方式を対応させている。

イ：不確実性を早期に減らせない。

ウ：業務ニーズの変化へ対応できない。

エ：方式名だけでは採用理由にならない。

総合解説：B-2では開発方式そのものの説明ではなく、案件の不確実性・関係者・納期などから採用理由を具体化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0092

開発・移行・運用テーマ > 開発方式・品質確保 | 難易度：標準

『操作ミスを減らしたい』という要求を品質確保へ反映する記述として適切なのはどれか。

- ア．操作ミスをできるだけ減らす。
- イ．主要操作の誤入力率を現行比50%以下とし、代表業務シナリオのユーザビリティ評価で確認する。
- ウ．画面を新しいデザインにする。
- エ．高品質な製品を使う。

答え・解説

正答：イ

ア：合否基準がない。

イ：測定可能な目標と確認方法が結び付いている。

ウ：見た目の変更とミス削減は同義ではない。

エ：製品名では品質達成を保証しない。

総合解説：品質確保では、抽象的な品質要求を測定可能な基準と検証方法へ変換する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0093

開発・移行・運用テーマ > 開発方式・品質確保 | 難易度：標準

限られたレビュー時間で、請求計算ロジックと社内掲示板の文言修正が同時に対象となった。適切なレビュー計画はどれか。

- ア．全成果物を必ず同じ時間だけレビューする。
- イ．掲示板文言だけを優先する。
- ウ．金銭影響や変更複雑度の高い請求計算を重点対象とし、リスクに応じてレビュー深度を変える。
- エ．レビュー対象を無作為に決める。

答え・解説

正答：ウ

ア：重要度差を無視している。
イ：業務影響の大きい箇所を軽視する。
ウ：品質リスクに応じて有限なレビュー資源を配分している。
エ：再現可能な判断基準がない。
総合解説：品質活動は一律ではなく、欠陥影響・複雑性・変更量などで重点化すると論述に具体性が出る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0094

開発・移行・運用テーマ > 開発方式・品質確保 | 難易度：基礎

毎週リリースするシステムで手作業デプロイの設定漏れが頻発している。適切な改善はどれか。

- ア．担当者を増やして手順書を口頭で共有する。
- イ．設定漏れは利用者テストで見つければよい。
- ウ．自動化すればレビューやテストは不要とする。
- エ．ビルド・テスト・デプロイ手順をパイプライン化し、同じ手順を環境間で再現できるようにする。

答え・解説

正答：エ

ア：人手依存が残る。
イ：本番近くまで欠陥を持ち越す。
ウ：自動化は他の品質活動を代替しない。
エ：反復作業のばらつきを減らし、再現性のある品質確保につながる。
総合解説：開発自動化は速度だけでなく、手順の標準化・再現性・早期検出という品質効果まで説明する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0095

開発・移行・運用テーマ > 開発方式・品質確保 | 難易度：応用

短納期対応で暫定実装が増え、変更のたびに影響範囲が拡大している。適切な論述はどれか。
ア．負債項目を可視化し、影響度と変更頻度で優先順位を付けてリファクタリングを計画へ組み込む。
イ．暫定実装は動いているので永久に放置する。
ウ．全機能を一度に書き直す。
エ．技術的負債を利用者に説明せず隠す。

答え・解説

正答：ア

ア：現実的に負債を管理し、将来変更コストを制御する。
イ：保守性悪化が継続する。
ウ：リスクと費用が過大になりやすい。
エ：計画・合意ができない。
総合解説：品質確保はリリース時点だけでなく、保守性や変更容易性を継続的に管理する視点も含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0096

開発・移行・運用テーマ > 開発方式・品質確保 | 難易度：標準

本番障害時に、どのソース・設定・ライブラリで構成された版が再現できなかった。改善として適切なものはどれか。
ア．本番サーバ上のファイルだけを正本にする。
イ．リリースごとにソース版、依存関係、設定、成果物を一意に識別し、変更履歴を管理する。
ウ．ライブラリ版は担当者の記憶に任せる。
エ．設定変更は記録せず直接編集する。

答え・解説

正答：イ

ア：正本性と再現性が弱い。
イ：障害再現・切戻し・監査に必要な構成情報を追跡できる。
ウ：属人化する。
エ：変更原因を追跡できない。
総合解説：構成管理はソースだけでなく、設定・依存物・成果物を含めてリリース状態を再現可能にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0097

開発・移行・運用テーマ > 開発方式・品質確保 | 難易度：標準

結合テスト後半で重大欠陥の検出率が上昇している。適切な判断はどれか。

- ア．件数が多いので集計を停止する。
- イ．重大欠陥も軽微欠陥と同じに扱う。
- ウ．欠陥の混入工程と共通原因を分析し、該当設計・実装の追加レビューや回帰テストを行う。
- エ．テスト終了日が来たので原因分析せず終了する。

答え・解説

正答：ウ

ア：問題を見えなくする。
イ：影響度を無視する。
ウ：メトリクスを品質リスクの追加対策へ結び付けている。
エ：終了判断の根拠が不足する。
総合解説：品質メトリクスは報告のためだけでなく、追加確認・改善を決めるために使う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0098

開発・移行・運用テーマ > 開発方式・品質確保 | 難易度：標準

一部開発を外部委託するが、受入れ後に品質問題が多発している。適切な改善はどれか。

- ア．品質は委託先の責任なので自社は確認しない。
- イ．納期だけを契約条件にする。
- ウ．受入れ基準を本番稼働後に決める。
- エ．成果物基準、レビュー観点、欠陥基準、受入れ条件、報告方法を契約・開発計画で明確にする。

答え・解説

正答：エ

ア：発注側の受入れ責任を放棄している。
イ：品質を評価できない。
ウ：手戻りを防げない。
エ：責任境界と品質基準を事前に共有できる。
総合解説：外部委託でもシステム全体の品質責任は発注側に残るため、具体的な受入れ基準を設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0099

開発・移行・運用テーマ > 開発方式・品質確保 | 難易度：基礎

公開Webシステムでリリース直前に脆弱性が多数見つかった。恒久対策として適切なのはどれか。

ア．要件・設計段階の脅威検討、実装時の静的解析、テスト時の動的検証を開発プロセスへ組み込む。

イ．リリース直前の診断だけ回数を増やす。

ウ．脆弱性は運用開始後に修正する。

エ．セキュリティ確認は担当者の勘に任せる。

答え・解説

正答：ア

ア：欠陥を早期に作り込ませない・検出する複数工程の対策になる。

イ：発見が遅く手戻りが大きい。

ウ：利用者をリスクにさらす。

エ：再現可能な品質活動にならない。

総合解説：セキュリティ品質は終盤検査だけでなく、ライフサイクル全体に組み込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0100

開発・移行・運用テーマ > 開発方式・品質確保 | 難易度：応用

納期を1か月短縮する要求があり、全機能を維持すると総合テスト期間が半分になる。適切な提案はどれか。

ア．全機能を維持してテストを半減する。

イ．必須機能を先行し、低優先機能を後続リリースへ分けて必要なテスト期間を確保する。

ウ．品質基準を下げることを隠す。

エ．納期要求を理由なく無視する。

答え・解説

正答：イ

ア：障害リスクが増える。

イ：スコープを調整して納期と品質を両立している。

ウ：合意のない品質低下になる。

エ：ビジネス制約へ対応していない。

総合解説：固定納期では品質活動を削るより、スコープや段階化を調整する判断を論述する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0101

開発・移行・運用テーマ>テスト・移行・切替え | 難易度：標準

新決済システムで、通常購入より返品・部分取消しの業務事故が重大である。適切なテスト計画はどれか。

ア．正常購入だけを多数実施する。

イ．画面表示だけを確認する。

ウ．返品・部分取消しを重点シナリオとして、金額・状態遷移・外部決済連携まで確認する。

エ．重大事故が起きやすい例外系を本番で初めて確認する。

答え・解説

正答：ウ

ア：主要リスクを確認できない。

イ：金額・連携の正しさを保証できない。

ウ：業務影響の高い例外処理ヘテストを重点化している。

エ：本番リスクが高い。

総合解説：テストは網羅率だけでなく、業務損失の大きいシナリオへ優先配分する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0102

開発・移行・運用テーマ>テスト・移行・切替え | 難易度：標準

本番ピークは同時2,000ユーザだが、テストでは20ユーザしか使っていない。改善として適切なのはどれか。

ア．20ユーザで速ければ本番も速いとみなす。

イ．平均応答だけ見て最大負荷を確認しない。

ウ．性能は本番後に確認する。

エ．本番相当の同時数・データ量・処理混在を再現し、目標応答時間と資源余力を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：スケール時のボトルネックを検出できない。

イ：ピーク性能を保証できない。

ウ：本番障害につながる。

エ：本番負荷条件への適合を検証できる。

総合解説：非機能テストでは、本番の負荷分布・データ量・同時性をできるだけ再現する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0103

開発・移行・運用テーマ > テスト・移行・切替え | 難易度：標準

切替え停止時間は6時間である。リハーサルとして最も適切なのはどれか。

- ア．本番相当データを用い、移行・検証・業務確認・切戻し判断まで含む所要時間を計測する。
- イ．少量データで変換プログラム起動だけを見る。
- ウ．コピー時間だけ測る。
- エ．作業者を参加させず手順書だけ読む。

答え・解説

正答：ア

- ア：実際の切替え成立性を総合的に確認できる。
- イ：大量データ時の問題を確認できない。
- ウ：業務利用可能になるまでの時間が不明である。
- エ：役割・手順の実行性を確認できない。

総合解説：移行リハーサルは技術処理だけでなく、人・検証・判断を含む本番模擬として行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0104

開発・移行・運用テーマ > テスト・移行・切替え | 難易度：基礎

旧新DBの件数が一致した。追加で確認すべき内容として最も適切なのはどれか。

- ア．件数一致だけで終了する。
- イ．重要金額の集計、キー重複、必須項目、コード変換、参照関係を照合する。
- ウ．1件だけ目視する。
- エ．新DBが起動すれば十分とする。

答え・解説

正答：イ

- ア：内容一致を保証しない。
- イ：件数では検出できない誤変換や関係不整合を確認できる。
- ウ：全体品質を評価できない。
- エ：データ正しさとは別である。

総合解説：移行完了条件は件数・集計・関係・業務上重要な値を組み合わせで定義する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0105

開発・移行・運用テーマ>テスト・移行・切替え | 難易度：応用

本番切替え後に重大障害が発生した場合、旧システムへ戻す。適切な計画はどれか。

ア．障害後に条件を考える。

イ．新システムの取引を全て捨てる。

ウ．切戻し判断条件、判断期限、責任者、新システムで発生した取引データの扱いを事前に定める。

エ．最初に気付いた担当者が独断で決める。

答え・解説

正答：ウ

ア：判断が遅れて戻せなくなる。

イ：業務データを失う。

ウ：技術・業務・意思決定を含む切戻し成立条件を準備できる。

エ：統制された判断でない。

総合解説：切戻しは手順だけでなく、判断条件・期限・権限・データ整合性まで設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0106

開発・移行・運用テーマ>テスト・移行・切替え | 難易度：標準

全国100店舗を10店舗ずつ段階切替えする案の評価として適切なのはどれか。

ア．段階切替えなら新旧連携は不要になる。

イ．段階切替えなら障害は起きない。

ウ．一斉切替えより必ず安価である。

エ．障害影響を限定し学習を後続へ反映しやすい一方、新旧併存中のデータ連携・運用が複雑になる。

答え・解説

正答：エ

ア：併存中はむしろ連携が必要な場合がある。

イ：リスクをゼロにはできない。

ウ：二重運用で費用増もあり得る。

エ：利点と追加コストの双方を示している。

総合解説：切替え方式は影響範囲、併存期間、同期、教育、切戻しを比較して選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0107

開発・移行・運用テーマ>テスト・移行・切替え | 難易度：標準

受入れテストで開発者の単体テストだけを再実施する案が出た。不足しているものはどれか。

ア．実際の業務シナリオと受入れ基準に基づき、利用部門が業務要件を満たすか確認する観点。

イ．コード分岐100%だけ。

ウ．開発者だけで完了すること。

エ．データや権限は確認しないこと。

答え・解説

正答：ア

ア：受入れの目的である業務利用可能性を確認できる。

イ：内部網羅だけでは不足する。

ウ：利用部門の確認が欠ける。

エ：本番利用に重要な観点を失う。

総合解説：テストレベルごとの目的を分け、受入れは業務プロセスと受入れ条件へ結び付ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0108

開発・移行・運用テーマ>テスト・移行・切替え | 難易度：標準

旧データの0.3%が新必須コードへ変換できない。適切な対応はどれか。

ア．空欄で登録して警告を残さない。

イ．例外を一覧化し、業務担当者の補正・除外判断と根拠を記録して再検証する。

ウ．対象を自動削除する。

エ．任意コードを割り当てる。

答え・解説

正答：イ

ア：不完全データを見逃す。

イ：例外の所在・判断・承認を追跡できる。

ウ：業務事実を失う。

エ：誤分類になる。

総合解説：移行では正常系だけでなく、変換不能・重複・不正値の例外処理と承認も設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0109

開発・移行・運用テーマ>テスト・移行・切替え | 難易度：基礎

切替え後1週間を安定化期間とする。終了判定として適切なのはどれか。

ア．1週間経過だけで終了する。

イ．開発者が忙しくなったら終了する。

ウ．重大障害、遅延、未解決データ不整合、問い合わせ件数など事前基準を満たすことを確認する。

エ．問い合わせを記録しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：問題が残る可能性がある。

イ：客観的基準でない。

ウ：期間だけでなくサービスと業務の安定性を評価できる。

エ：重要な状況を把握できない。

総合解説：切替え後は技術・データ・業務の指標で安定化を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0110

開発・移行・運用テーマ>テスト・移行・切替え | 難易度：応用

総合テストで軽微欠陥20件、重大欠陥1件が未解決で、重大欠陥は請求金額を誤る。適切なリリース判断はどれか。

ア．件数が少ないのでそのままリリースする。

イ．軽微欠陥の件数だけで判断する。

ウ．重大欠陥を既知事項として利用者へ知らせるだけで出す。

エ．重大欠陥の業務影響を受入れ基準に照らし、原則修正・再テスト後にリリース可否を判断する。

答え・解説

正答：エ

ア：金銭誤りは重大な業務影響がある。

イ：重大度を無視している。

ウ：通知だけではリスクを受容したことにならない。

エ：欠陥件数だけでなく影響度と受入れ基準で判断している。

総合解説：リリース判定では欠陥数だけでなく、重大度・回避策・業務影響・受入れ条件を用いる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0111

開発・移行・運用テーマ > 運用・保守・評価 | 難易度：標準

24時間受注を受けるシステムで夜間バッチが長時間化すると翌朝業務へ影響する。適切な運用設計はどれか。

- ア．バッチ完了期限、監視閾値、遅延時の代替手順、担当者への通知を定義する。
- イ．バッチ開始だけ監視する。
- ウ．遅延時は翌朝利用者が気付くまで待つ。
- エ．期限を決めない。

答え・解説

正答：ア

ア：業務影響を運用監視と対応手順へ落としている。

イ：完了遅延を検知できない。

ウ：復旧が遅れる。

エ：評価基準がない。

総合解説：運用設計では業務上の締切やサービス影響を監視・対応条件へ具体化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0112

開発・移行・運用テーマ > 運用・保守・評価 | 難易度：標準

月間可用性99.9%がSLOで、実績99.7%だった。適切な評価はどれか。

- ア．99%を超えているので達成とする。
- イ．未達時間帯と原因を分析し、再発防止策と改善後の測定方法を定める。
- ウ．SLOを実績に合わせて99.7%へ変更する。
- エ．測定を停止する。

答え・解説

正答：イ

ア：SLOを満たしていない。

イ：合意した基準とのギャップを改善へつなげている。

ウ：事後的に基準を下げている。

エ：評価不能になる。

総合解説：運用評価は目標と実績の差を分析し、改善サイクルへつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0113

開発・移行・運用テーマ > 運用・保守・評価 | 難易度：標準

小さな設定変更後に本番障害が起きた。恒久対策として適切なのはどれか。

ア．設定変更は小さいので記録しない。

イ．本番で直接試す。

ウ．設定変更も変更管理対象とし、影響分析・レビュー・テスト・切戻し手順を適用する。

エ．障害後に担当者を交代するだけにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：原因追跡ができない。

イ：本番リスクが高い。

ウ：変更の大きさではなく影響リスクに応じた統制になる。

エ：プロセス原因を改善しない。

総合解説：保守ではコード以外の設定・インフラ変更も含めて変更管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0114

開発・移行・運用テーマ > 運用・保守・評価 | 難易度：基礎

同じAPIタイムアウトが毎週発生し、その都度再起動で復旧している。適切な改善はどれか。

ア．毎週再起動すれば十分とする。

イ．障害記録を削除する。

ウ．利用者へ再試行を求めるだけにする。

エ．再起動での暫定復旧と別に、発生条件・ログ・依存先を分析して根本原因と恒久対策を管理する。

答え・解説

正答：エ

ア：再発を止めない。

イ：分析材料を失う。

ウ：利用者へ負担を転嫁するだけである。

エ：暫定復旧と根本原因除去を分けている。

総合解説：運用・保守ではインシデントの早期復旧と、問題管理による再発防止を区別する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0115

開発・移行・運用テーマ > 運用・保守・評価 | 難易度：応用

問い合わせの60%がパスワード再設定、20%が検索操作、残りが個別障害である。改善方針として適切なものはどれか。

- ア．件数と工数を分析し、再設定セルフサービス化など効果の大きい改善を優先する。
- イ．問い合わせ種類を集計しない。
- ウ．最も珍しい障害だけを優先する。
- エ．件数だけでなく工数も無視する。

答え・解説

正答：ア

ア：実績データに基づき改善効果を見積もれる。
イ：改善効果を判断できない。
ウ：全体負荷を下げにくい。
エ：実際の負担を評価できない。
総合解説：運用評価は件数、工数、影響度などの実績から継続改善の優先順位を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0116

開発・移行・運用テーマ > 運用・保守・評価 | 難易度：基礎

毎月の制度改定で同じ業務ルールを5か所修正しており、修正漏れが起きる。適切な改善はどれか。

- ア．修正担当者を5倍にする。
- イ．共通ルールを一元管理する構造へ見直し、変更箇所と回帰テスト範囲を減らす。
- ウ．変更箇所一覧を毎回手で探す。
- エ．制度改定対応を停止する。

答え・解説

正答：イ

ア：構造的な原因が残る。
イ：重複実装という保守性の原因へ作用する。
ウ：漏れを防ぎにくい。
エ：業務要件を満たさない。
総合解説：保守性評価では、変更頻度・変更箇所・影響範囲を観察し構造改善へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0117 開発・移行・運用テーマ > 運用・保守・評価 | 難易度：標準

データ量が月10%ずつ増え、現行容量は約6か月後に上限へ達する見込みである。適切な運用判断はどれか。

ア．上限到達後に初めて検討する。

イ．容量監視を停止する。

ウ．増加率と調達・拡張リードタイムを踏まえ、上限到達前に拡張又はデータライフサイクル施策を実施する。

エ．成長率を無視し現在値だけで判断する。

答え・解説 正答：ウ

ア：サービス停止リスクが高い。

イ：兆候を把握できない。

ウ：将来予測と準備時間を含む予防的な容量管理である。

エ：到達時期を予測できない。

総合解説：運用では実績トレンドを使い、必要容量と拡張時期を継続的に見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0118 開発・移行・運用テーマ > 運用・保守・評価 | 難易度：標準

バックアップ成功ログは毎日出ているが、復元テストでRTOを超過した。適切な評価はどれか。

ア．バックアップ成功なので問題なしとする。

イ．RTOを測定結果に合わせて無断で緩和する。

ウ．復元テストをやめる。

エ．バックアップ取得は成功していても復旧目標を満たしていないため、復元方式や手順を改善する。

答え・解説 正答：エ

ア：取得成功と復旧成功は別である。

イ：業務合意を無視している。

ウ：問題を見えなくする。

エ：運用の目的である復旧可能性を評価している。

総合解説：バックアップ運用は取得率だけでなく、復元時間・整合性・手順の実効性で評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0119

開発・移行・運用テーマ > 運用・保守・評価 | 難易度：基礎

自動監視導入で障害検知を早める施策を行った。効果評価として適切なのはどれか。

- ア．導入前後の平均検知時間、平均復旧時間、見逃し件数を同じ定義で比較する。
- イ．監視製品を導入したので成功とする。
- ウ．担当者の感想だけ聞く。
- エ．導入後の値だけ記録する。

答え・解説

正答：ア

ア：施策目的に直接対応する指標を前後比較できる。

イ：導入自体は効果を保証しない。

ウ：主観的である。

エ：改善量を算出できない。

総合解説：継続改善では施策目的に対応する指標を導入前後で比較する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0120

開発・移行・運用テーマ > 運用・保守・評価 | 難易度：応用

基盤ソフトが半年後にサポート終了する。適切な対応はどれか。

- ア．終了後も無期限にそのまま使う。
- イ．脆弱性対応・障害支援・互換性のリスクを評価し、更新・移行計画をサポート終了前に実施する。
- ウ．障害が出てから初めて調べる。
- エ．サポート終了情報を利用部門に知らせない。

答え・解説

正答：イ

ア：セキュリティ・復旧リスクが高い。

イ：保守不能化の将来リスクを事前に管理している。

ウ：対応リードタイムが不足する。

エ：業務側の合意準備ができない。

総合解説：運用保守では製品ライフサイクルも監視し、技術負債やEOLを計画的に解消する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0121

論文評価・改善 > 具体性・数値・実務性 | 難易度：基礎

論文中の『性能を考慮して設計した』という記述を改善するものとして最も適切なのはどれか。

ア．性能には十分注意したと書く。

イ．高性能な構成にしたとだけ書く。

ウ．ピーク時300同時利用、95パーセンタイル2秒以内を要件とし、負荷試験で1.6秒を確認したと具体化する。

エ．最新技術を使ったと書く。

答え・解説

正答：ウ

ア：何をどの水準で考慮したか不明である。

イ：高性能の定義がない。

ウ：条件・目標・結果が具体化され、判断を検証できる。

エ：技術の新しさは性能達成を保証しない。

総合解説：B-2では抽象的な『考慮した』『工夫した』を、条件・数値・行動・結果へ置き換える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0122

論文評価・改善 > 具体性・数値・実務性 | 難易度：標準

『データ量は1TBだった』という記述を論文で意味ある情報にするには何を加えるべきか。

ア．単位を削除する。

イ．別案件のデータ量を追加する。

ウ．1TBという数字を何度も繰り返す。

エ．増加率や移行時間制約、処理性能への影響など、その数値が設計判断へ与えた意味。

答え・解説

正答：エ

ア：意味がさらに曖昧になる。

イ：自案件の判断と関係しない。

ウ：情報量は増えない。

エ：数値が設計判断の根拠として機能する。

総合解説：数値は単独で置くのではなく、要件・制約・比較・評価へ結び付ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0123

論文評価・改善 > 具体性・数値・実務性 | 難易度：標準

『関係者と調整した』という記述を改善するものはどれか。

- ア．営業責任者と審査責任者へ入力項目の優先順位を提示し、必須12項目と条件付き5項目で合意した。
- イ．多くの人と話した。
- ウ．関係者に説明した。
- エ．みんなで決めた。

答え・解説

正答：ア

ア：誰と何をどのように調整し、何が決まったか明確である。

イ：主体と結果が不明である。

ウ：調整内容が分からない。

エ：意思決定過程を評価できない。

総合解説：実務性は、登場人物・判断事項・合意内容を具体的に書くことで伝わる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0124

論文評価・改善 > 具体性・数値・実務性 | 難易度：基礎

『方式Aより方式Bの方が良かった』という記述を改善するものはどれか。

- ア．方式Bが新しいので採用した。
- イ．方式Aは復旧30分・月額80万円、方式Bは復旧5分・月額120万円で、RTO10分を満たすBを採用した。
- ウ．方式Aは何となく不安だった。
- エ．方式Bの方が人気だった。

答え・解説

正答：イ

ア：新しさは適合性の根拠ではない。

イ：同じ評価軸・数値・要件との対応が示される。

ウ：主観的である。

エ：人気は案件要件ではない。

総合解説：比較は共通評価軸で具体化し、採用要件との一致を示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0125

論文評価・改善 > 具体性・数値・実務性 | 難易度：応用

業務改善効果の論述として最も適切なのはどれか。

ア．かなり効率化できた。

イ．利用者の評判がよかった。

ウ．受注入力時間が平均12分から7分へ短縮し、月5,000件で約417時間の削減となった。

エ．画面がきれいになった。

答え・解説

正答：ウ

ア：程度が不明である。

イ：主観的である。

ウ：改善量と業務規模を定量的に示している。

エ：業務効率の効果を直接示さない。

総合解説：効果は可能な範囲で導入前後の同じ指標を比較し、業務インパクトへ換算する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0126

論文評価・改善 > 具体性・数値・実務性 | 難易度：基礎

理想的には全面刷新したが、予算と移行期限から段階移行した案件で、適切な論述はどれか。

ア．理想案しか書かない。

イ．予算や期限を隠す。

ウ．段階移行した理由を『普通だから』とする。

エ．全面刷新案も比較した上で、予算1億円・6か月期限では成立しないため段階移行を選んだと書く。

答え・解説

正答：エ

ア：実際の判断を説明できない。

イ：方式選択の必然性が分らない。

ウ：根拠にならない。

エ：実務制約と選択理由がつながる。

総合解説：実務性は、制約の中で何を優先し、何を諦めたかを示すことで高まる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0127

論文評価・改善 > 具体性・数値・実務性 | 難易度：標準

導入初週に想定外の問い合わせが増えた。論文での扱いとして適切なのはどれか。

ア．問い合わせ内容を分類し、操作説明不足が60%と判明したためFAQと画面ガイドを追加し、翌週に件数が半減したと書く。

イ．失敗は評価を下げるので全て隠す。

ウ．問い合わせが多かったとだけ書く。

エ．利用者の理解不足だけを原因にする。

答え・解説

正答：ア

ア：問題発生から分析・対策・効果まで実務的な改善を示せる。

イ：経験に基づく改善過程を失う。

ウ：原因分析がない。

エ：責任転嫁で再発防止にならない。

総合解説：論文では問題が起きなかったことより、問題をどう分析し改善したかも具体的な評価材料になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0128

論文評価・改善 > 具体性・数値・実務性 | 難易度：標準

『DBが遅かったので改善した』という記述を改善するものはどれか。

ア．DBは遅いと思った。

イ．APMでDB接続待ちが全応答時間の65%を占めると確認し、接続保持とSQLを改善した。

ウ．担当者がDBを疑った。

エ．有名なDBなので問題ないとした。

答え・解説

正答：イ

ア：推測にすぎない。

イ：観測データから原因と対策を説明している。

ウ：客観的根拠がない。

エ：製品評価と実際の性能は別である。

総合解説：技術的判断はログ・計測・試験結果などの客観証拠で支えると具体性が上がる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0129

論文評価・改善 > 具体性・数値・実務性 | 難易度：基礎

切替え作業の論述として適切なのはどれか。

ア．夜に切り替えた。

イ．担当者が頑張って切り替えた。

ウ．22時に旧系更新を停止し、差分移行・件数照合・業務確認後、0時30分に新系を開放した。

エ．切替えは問題なく終わった。

答え・解説

正答：ウ

ア：何をしたか不明である。

イ：再現可能性がない。

ウ：時点・主要作業・確認・完了が具体的である。

エ：成功の根拠がない。

総合解説：実務手順は設問に必要な範囲で時系列・確認点・判断点を具体化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0130

論文評価・改善 > 具体性・数値・実務性 | 難易度：応用

実案件で正確な数値を覚えていない場合の論述方針として適切なのはどれか。

ア．説得力のため細かい数値を自由に作る。

イ．全ての数値を省き抽象論だけにする。

ウ．他社事例の数値を自案件として使う。

エ．確実に把握している範囲の規模や相対関係を用い、根拠のない精密な数値を作らない。

答え・解説

正答：エ

ア：経験に基づかなくなる。

イ：具体性を過度に失う。

ウ：自分の案件の根拠にならない。

エ：事実性を保ちながら必要な具体性を確保できる。

総合解説：数値は有効だが、事実に基づくことが前提であり、無理に精密値を作る必要はない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0131

論文評価・改善 > 論理的一貫性・根拠 | 難易度：基礎

課題が『外部API障害で注文受付まで停止する』である。対策として最も論理的なのはどれか。
ア．通知等の非必須外部処理を非同期化し、タイムアウトとフォールバックで障害伝播を抑える。
イ．画面の色を変える。
ウ．DB容量を増やす。
エ．研修回数を増やす。

答え・解説

正答：ア

ア：課題の原因である外部依存の障害伝播へ直接作用する。
イ：原因と無関係である。
ウ：容量問題ではない。
エ：技術的な障害伝播を解消しない。
総合解説：論理的一貫性は、課題→原因→対策が同じ因果線上にあるかで確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0132

論文評価・改善 > 論理的一貫性・根拠 | 難易度：標準

第1章では『停止は最大10分』、第2章では『6時間停止できるので一括移行』と書いている。評価として適切なのはどれか。
ア．数字が多いので説得力が高い。
イ．前提と採用理由が矛盾しており、実際の停止制約に基づいて方式説明を修正すべきである。
ウ．章が違えば矛盾してもよい。
エ．一括移行と停止時間は無関係である。

答え・解説

正答：イ

ア：数値の多さと一貫性は別である。
イ：方式判断は停止可能時間に依存するため矛盾が重大である。
ウ：論文全体の整合性が必要である。
エ：切替え方式と停止制約は密接に関係する。
総合解説：章をまたぐ前提条件と設計判断は同じ事実に基づいていなければならない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0133

論文評価・改善 > 論理的一貫性・根拠 | 難易度：標準

施策目的が『障害検知を早める』である。評価指標として最も適切なのはどれか。

ア．サーバ購入価格だけを見る。

イ．開発者人数だけを見る。

ウ．平均検知時間や未検知件数を導入前後で比較する。

エ．画面数だけ数える。

答え・解説

正答：ウ

ア：検知速度とは直接関係しない。

イ：評価対象が異なる。

ウ：施策目的に直接対応する結果を測定できる。

エ：目的と無関係である。

総合解説：評価章では、前段の施策目的と同じ軸の指標を使う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0134

論文評価・改善 > 論理的一貫性・根拠 | 難易度：基礎

『クラウドは拡張性が高いので採用した』という記述を改善するものはどれか。

ア．クラウドは一般に便利だからと書く。

イ．多くの企業が使うからと書く。

ウ．有名だからと書く。

エ．セール時に平常の20倍へ負荷が増えるため、自動スケール可能な構成を比較し採用したと書く。

答え・解説

正答：エ

ア：一般論だけである。

イ：自案件への適合を示さない。

ウ：根拠にならない。

エ：自案件の負荷特性が採用理由になっている。

総合解説：採点講評では一般論より、自らの検討理由・業務条件を具体的に述べることが重視される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0135

論文評価・改善 > 論理の一貫性・根拠 | 難易度：応用

方式AとBを比較する際に適切な方法はどれか。

ア．可用性、費用、移行期間など同じ評価軸で両方式を評価する。

イ．Aは長所だけ、Bは短所だけ書く。

ウ．方式ごとに有利な評価軸へ変える。

エ．採用した方式だけ説明し代替案は作らない。

答え・解説

正答：ア

ア：同一条件で比較するため判断の妥当性を示せる。

イ：恣意的な比較である。

ウ：公平性がない。

エ：なぜ他案を採らなかったか分からない。

総合解説：トレードオフ論述では共通評価軸と比較結果を示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0136

論文評価・改善 > 論理の一貫性・根拠 | 難易度：基礎

設問アで『欠品削減』を課題としたのに、設問イで在庫とは無関係な認証方式だけを論じている。適切な改善はどれか。

ア．設問ごとに無関係な話題を選ぶ。

イ．設問イも欠品削減に必要な在庫鮮度・補充方式など、設問アの課題に対応する判断へつなげる。

ウ．認証方式を欠品対策と無理に言い換える。

エ．設問アを削除する。

答え・解説

正答：イ

ア：論文全体が分断される。

イ：設問間の因果とテーマを維持できる。

ウ：不自然な論理になる。

エ：課題の前提を失う。

総合解説：複数設問は独立した作文ではなく、同一案件の一連の検討としてつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0137

論文評価・改善 > 論理的一貫性・根拠 | 難易度：標準

負荷試験を1回だけ行い目標を満たした。そこから『今後どんな負荷でも絶対に性能問題は起きない』と結論付けることの問題はどれか。

ア．結論が強いほど良い。

イ．1回でも試験したので絶対保証できる。

ウ．限られた試験条件から一般化し過ぎており、確認した条件の範囲で評価すべきである。

エ．性能試験結果は根拠に使えない。

答え・解説

正答：ウ

ア：論理的妥当性がない。

イ：試験条件に依存する。

ウ：根拠が支える範囲を超えた結論になっている。

エ：適切な条件なら有効な根拠になる。

総合解説：論文の結論は、実際に確認した条件・測定範囲に見合う強さで表現する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0138

論文評価・改善 > 論理的一貫性・根拠 | 難易度：標準

論文で『方式決定後に要件を初めて確認した』と書き、その要件を方式選定理由としている。問題点はどれか。

ア．時系列は論文評価に関係しない。

イ．要件は方式決定後に確認するのが原則である。

ウ．方式選定理由は後付けでよい。

エ．要件確認より前に決めた方式を、その後判明した要件で選んだと説明しており時系列が矛盾している。

答え・解説

正答：エ

ア：検討経緯の信頼性に影響する。

イ：要件は通常方式選択の重要な前提である。

ウ：後付け理由では実際の判断を示せない。

エ：判断時点で存在した情報と理由の整合が取れていない。

総合解説：設計判断の理由は、その判断時点で認識していた要件・制約・比較結果に基づいて書く。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0139

論文評価・改善 > 論理的一貫性・根拠 | 難易度：基礎

システム刷新後に売上が10%増えた。論文で『刷新により売上が10%増えた』と断定する前に必要なことはどれか。

ア．他の施策や市場要因を確認し、刷新施策と売上増加の関係を説明できる指標や根拠を検討する。

イ．同じ時期なら必ず因果関係があるとする。

ウ．売上増だけ見て他要因を無視する。

エ．数値が大きければ原因分析は不要とする。

答え・解説

正答：ア

ア：同時発生と因果を区別し、評価の妥当性を高める。

イ：相関を因果と誤認している。

ウ：評価が偏る。

エ：数値の大きさは因果を保証しない。

総合解説：効果評価では、施策が結果へどう寄与したかを可能な範囲で説明し、過剰な断定を避ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0140

論文評価・改善 > 論理的一貫性・根拠 | 難易度：応用

論文の最後で最も確認すべきことはどれか。

ア．専門用語の数が多いか確認する。

イ．各設問で示した課題・判断・結果が、最終結論で同じ業務目的と設計方針へ収束しているか確認する。

ウ．文章が長いほど良いか確認する。

エ．採用製品名を何度書いたか数える。

答え・解説

正答：イ

ア：用語数は評価の本質ではない。

イ：論文全体の一貫性と設問適合を最終確認できる。

ウ：長さは品質を保証しない。

エ：製品名の反復は論理性と無関係である。

総合解説：論文評価では局所的に正しい記述だけでなく、全体が一つの業務目的・課題・判断でつながっているかを見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0141

論文評価・改善 > 設問対応・不足事項・答案改善 | 難易度：基礎

設問が「課題、採用方式、採用理由、評価」を求めている。答案には課題・方式・評価はあるが採用理由がない。最も適切な改善はどれか。

- ア．方式比較時の要件・制約・代替案を示し、なぜその方式を選んだかを追記する。
- イ．評価結果をさらに長くする。
- ウ．製品名を追加する。
- エ．課題の説明を削除する。

答え・解説

正答：ア

ア：不足している設問要求である採用理由を直接補える。
イ：不足要素は解消されない。
ウ：理由の代わりにはならない。
エ：論文の前提まで失う。
総合解説：論文完成後は、設問の要求語をチェックリスト化し、答案内に一対一で対応する記述があるか確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0142

論文評価・改善 > 設問対応・不足事項・答案改善 | 難易度：標準

答案に「クラウドは拡張性が高い」とだけ書かれている。B-2答案として最も適切な改善はどれか。

- ア．クラウドの歴史を追記する。
- イ．自案件ではセール時負荷が平常時の20倍になるため、必要時に水平拡張できる方式を比較して採用したと具体化する。
- ウ．クラウドは便利だと繰り返す。
- エ．有名なクラウド製品名を列挙する。

答え・解説

正答：イ

ア：設問の設計判断と関係が薄い。
イ：案件固有の条件・比較・判断が示される。
ウ：一般論のままである。
エ：製品名だけでは採用根拠にならない。
総合解説：採点講評では一般論ではなく、自分が何をどの理由で検討したかを具体的に述べることが重視される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0143

論文評価・改善 > 設問対応・不足事項・答案改善 | 難易度：標準

答案が技術構成の説明から突然始まり、なぜそのシステムが必要か分らない。最初に補うべき内容はどれか。

- ア．使用したプログラミング言語の歴史。
- イ．ベンダの会社概要。
- ウ．対象業務、解決したい課題、達成したい業務目標と自分の役割。
- エ．サーバ製品のカタログ情報。

答え・解説

正答：ウ

ア：業務目的を説明しない。
イ：案件判断と無関係である。
ウ：後段の技術判断を評価するための業務上の前提を示せる。
エ：手段の説明に偏る。
総合解説：アーキテクチャ論文でも技術は業務目的を実現する手段なので、背景・課題・目標を先に明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0144

論文評価・改善 > 設問対応・不足事項・答案改善 | 難易度：基礎

答案に「応答が1.5秒になったので方式Bを採用した」とあるが、1.5秒は採用後の測定結果である。適切な修正はどれか。

- ア．1.5秒を採用理由のままにする。
- イ．測定結果を削除する。
- ウ．採用理由を「方式Bが好きだから」にする。
- エ．採用前の比較条件を採用理由として示し、1.5秒は採用後の効果として別に記述する。

答え・解説

正答：エ

ア：後付け理由になる。
イ：有効な評価根拠を失う。
ウ：客観性がない。
エ：意思決定時の理由と事後評価を時系列に沿って分離できる。
総合解説：論理改善では、判断時点で利用した情報と、実施後に得られた結果を混同しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0145

論文評価・改善 > 設問対応・不足事項・答案改善 | 難易度：応用

答案が「段階移行が最適だった」と結論付けているが比較内容がない。最も適切な追記はどれか。

ア．段階移行という語を太字にする。

イ．最適だったと三回繰り返す。

ウ．一斉移行と段階移行を停止時間・障害影響・新旧併存コストで比較した結果を示す。

エ．他社も段階移行しているとだけ書く。

答え・解説

正答：ウ

ア：書式は根拠にならない。

イ：反復しても根拠は増えない。

ウ：結論を支える共通評価軸と比較結果を提示できる。

エ：自案件の条件を示さない。

総合解説：結論には、案件要件に基づく比較や測定など、第三者が判断過程を追える根拠を添える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0146

論文評価・改善 > 設問対応・不足事項・答案改善 | 難易度：標準

答案に「大量データを短時間で移行した」とある。最も適切な改善はどれか。

ア．非常に大量だったと書く。

イ．かなり短かったと書く。

ウ．数字は不要なので全て削除する。

エ．約8,000万件を停止可能6時間以内に移行する必要がある、リハーサルで5時間20分を確認したと記述する。

答え・解説

正答：エ

ア：程度が曖昧である。

イ：評価基準がない。

ウ：設計判断の具体性を失う。

エ：規模・制約・実績を検証可能な形で示せる。

総合解説：数値は規模を示すだけでなく、制約や達成結果と結び付けると論文の実務性が高まる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0147

論文評価・改善 > 設問対応・不足事項・答案改善 | 難易度：基礎

第1章では「顧客ID」、第2章では同じものを「会員番号」、第3章では「利用者コード」と呼んでいる。改善として適切なものはどれか。

ア．同一概念なら正式名称へ統一し、異なる概念なら違いと対応関係を明示する。

イ．章ごとに別名のままにする。

ウ．さらに別の略語を追加する。

エ．用語説明を全て削除する。

答え・解説

正答：ア

ア：読み手が同一・別概念を誤解せず論理を追える。

イ：整合性を損なう。

ウ：混乱が増える。

エ：意味が判断できなくなる。

総合解説：論文では同じ対象を一貫した用語で表現し、名称変更が必要な場合は対応関係を示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0148

論文評価・改善 > 設問対応・不足事項・答案改善 | 難易度：標準

設問は「あなたがシステムアーキテクトとして工夫した点」を問うが、答案はベンダが実施した作業だけを説明している。適切な改善はどれか。

ア．ベンダの作業手順をさらに詳しくする。

イ．自分が設定した要件・比較観点・ベンダへの指示・設計判断を明示する。

ウ．会社全体の成果へ主語を広げる。

エ．自分の関与を記載しない。

答え・解説

正答：イ

ア：主語ずれが残る。

イ：設問で評価対象となる自分の役割と判断を明確にできる。

ウ：自分の寄与が曖昧になる。

エ：設問要求を満たさない。

総合解説：B-2ではプロジェクト全体の説明だけでなく、自分がどの立場で何を判断したかを示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0149

論文評価・改善 > 設問対応・不足事項・答案改善 | 難易度：応用

課題と対策は詳しいが、対策が有効だったかの記述がない。最も適切な追記はどれか。

ア．成功したとだけ書く。

イ．対策内容をもう一度繰り返す。

ウ．対策前に設定した目標と導入後の実績を同じ指標で比較し、未達なら残課題も示す。

エ．評価は設計者の感想だけにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：根拠がない。

イ：結果を示していない。

ウ：施策の有効性と残存課題を客観的に評価できる。

エ：主観的である。

総合解説：論文は実施で終わらず、業務・非機能目標に対する結果を評価することで設計判断の妥当性を示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01

0150

論文評価・改善 > 設問対応・不足事項・答案改善 | 難易度：標準

試験終了まで10分で、誤字2か所、設問イの採用理由が欠落、段落間の空行不足が見つかった。最優先で修正すべきものはどれか。

ア．空行を増やす。

イ．誤字だけを直して内容は触らない。

ウ．全答案を書き直す。

エ．設問イで要求された採用理由の欠落を補う。

答え・解説

正答：エ

ア：可読性には関係するが要求欠落より優先度は低い。

イ：軽微な誤字より内容欠落の影響が大きい。

ウ：時間切れで完成答案を失うリスクが高い。

エ：採点対象となる設問要求の欠落が最も重大である。

総合解説：見直しでは、まず設問要求の欠落・論理矛盾・根拠不足を優先し、その後に表記上の修正を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-01